財団法人 日本ハンドボール協会編　平成23年 4月1日発行(毎月1回1日発行)　通巻517号　昭和40年6月7日第3種郵便物認可

ハンドボール

3·4

MAR.APR.2011・No.517

特集

第22回 男子世界選手権
第62回 全日本総合選手権大会（女子の部）
JOCジュニアオリンピックカップ2010



表紙写真：第22回男子世界選手権・末松誠選手　写真提供・服部由紀氏

財団法人 日本ハンドボール協会

http://www.handball.jp/

全てのベクトルを「強化」に



(財) 日本ハンドボール協会会長　渡邊 佳英

この度、会長に再任されました。引続き日本ハンドボール協会にご支援賜りますようよろしくお願いいたします。また、このたびの東日本大震災で被災された皆様へ心よりお見舞い申し上げます。

日本ハンドボール協会は、今年度も引続き「強化」に全てのベクトルを合わせ、最大の目標であるオリンピック常時出場、世界選手権常時出場、そしてメダル獲得の実力をつけるべく総力を結集し、10月に男子は韓国、女子は中国で開催されますロンドンオリンピックアジア予選において、出場権を得るよう取り組んでいきます。また３月にフランスハンドボール連盟とパートナーシップ契約を締結しましたが、今後フランスとの交流も深めていきます。さらにハンドボール競技の注目度アップ、競技人口アップ等に向け以下の内容について役員一丸となって活動を続けていきます。

◆強化は、ロンドンオリンピック出場権獲得に向け、代表チームを更にブラッシュアップし全力で戦い抜きます。また、NTS の徹底と「JHA ジュニアアカデミー」の連結により、ジュニアからの強化と６年後、11 年後に備えた指導方針の一本化を図ります。さらに強化システムの見直しを柱に短期・中期の具体策の明確化と、指導者・スタッフの育成・拡大についても取り組みます。

◆審判は、国際レフェリーの早期育成は急務であり、国際基準のヤングレフェリー育成を最重点に取り組みます。

◆指導普及については、「普及活動事業」と「指導者育成事業」を２本柱と捉え、「小学生・中学生大会の拡大」、「NTS との連携・周知徹底」、「マスターズ大会の組織充実」、「車椅子大会の充実」等に取り組み、競技人口アップにつなげます。

◆国際は、東アジアハンドボール連盟との結束を更に強固にし、「アジア地域の発展」をベースに行動し、IHF、AHF に従来の提案はもちろん、新しい提案を投げかけます。また、IHF、AHF との関係を密にする活動も行います。

◆マーケティング・広報は、バリューアップ活動によるハンドボールの注目度アップ、マスコミへのアプローチ、新しいスポンサーの獲得・拡大等に取り組みます。

◆日本リーグは、「プロの興行集団」を目指し、日本のトップゲームをたくさんのファンに披露すると同時に、昨今の社会情勢の変化に対応するため「新ディビジョンの拡大・育成」に今年も取り組みます。

◆総務は、公益財団法人化に向けて役員の育成・充実と事務の整備に取り組みます。

◆財務は、政治、経済、社会的価値観等の前代未聞の激変を踏まえ、中期展望に基づいた予算の執行を考え実行します。

◆がんばれ 20 万人会は、「ハンドボールのバリューアップ」、「ハンドボール界総力をあげての日本代表応援」等の本来の目的を踏まえ、諸策を見直し 20 万人を目指します。

以上、今年度も皆様の幅広いご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

第22回 男子世界選手権

22nd Men's Handball World Championship



【最終順位】
優勝：フランス
2位：デンマーク
3位：スペイン
4位：スウェーデン
5位：クロアチア
6位：アイスランド
7位：ハンガリー
8位：ポーランド
9位：ノルウェー
10位：セルビア
11位：ドイツ
12位：アルゼンチン
13位：韓国
14位：エジプト
15位：アルジェリア
16位：日本
17位：スロバキア
18位：オーストリア
19位：ルーマニア
20位：チュニジア
21位：ブラジル
22位：チリ
23位：バーレーン
24位：オーストラリア

「第22回男子世界選手権」は、全て写真提供：服部由紀氏

報告

日本選手団団長　川上 憲太

日本が3大会ぶり（2005年出場以来）通算12度目の出場となった第22回男子世界選手権大会が、1月13日から30日まで、ハンドボール王国・スウェーデンの8都市で世界24か国が参加して行なわれました。

日本は1次リーグ4組の内のBグループに入り、アイスランド、ノルウェー、オーストリア、ハンガリーといずれもヨーロッパ選手権を勝ち抜いた強豪（WCの常連ロシアは予選敗退で不出場）とオリンピック開催が決定したブラジルとの戦いとなりました。

予選会場はスウェーデン北部の都市・ノルシェーピング、リンシェーピングで行なわれ、試合会場はさすがハンドボール王国で、連日たくさんの目の肥えたファンで埋まりました（4000人収容のハンドボール・アイスホッケー会場）。

日本チーム酒巻ジャパンは、1月4日に日本を出発、デンマークで事前合宿を行ない、充分なフィジカル、ディフェンスシステム、オフェンスシステムの確認を行ない、死のグループと言われたBグループで「予選リーグ突破」を第一目標に、短期間の調整ながら非常に充実したチームコンディションで戦いに入れました。

試合の結果、内容については、強化部門の報告を参照していただきたいのですが、日本チームは初戦のノルウェー戦で非常に素晴らしい内容で挑み、前半のシュートチャンスをものにできれば勝利に結びついた誠に「もったいない」戦いぶりでした。もう少しで勝利が手に入ったと感じました。ヨーロッパのパワー・スピート・テクニックに負けない実力がついてきたと感じた試合でした。

第2戦オーストリア戦は、その手ごたえそのままに堂々の勝利でした。日本にとって33年ぶりにヨーロッパ勢を打ち破る歴史的勝利となりました。「高くて・重たくて・固くて・早くて・うまい」どれをとっても一段上のヨーロッパ勢の一角を見事に打ち破りました。

「ハンドボールは体格ではない」「アジアからきた小さなスーパースター」の見出しが新聞で大きく報道されました。

日本のハンドボールのスピード・ボール廻し・プレスディフェンスに対し注目が集まりました。これは決して宮﨑選手個人のことだけでなく日本チームに対する驚異の表れであったと思います。関係者、ファンは「サプライズ」を連呼していましたが、とんでもありません。実力で勝利しました。

第3戦のアイスランドは、この日本の戦いぶりに徹底した対策を練り、ベテランをはずし、日本のスピードハンドボールに対し、アグレシッブな固いディフェンスで必死の守りで対応してきました。「高くて・重くて・固い」ディフェンスの前に完敗でした。

第4戦ハンガリー戦は、ここで勝利すれば「予選リーグ突

破」とチーム全員が自信を持って勝ちに行きました。結果は誠に残念だった訳ですが、ここも決して実力差を感じる内容ではありませんでした。

予選リーグ突破をねらっていた酒巻監督以下選手たちの目に悔し涙がにじんでいました。ここまで最強のヨーロッパ勢4試合の中で「もったいない」「残念だ」「もう少しだ」選手たちは次のステップに進めませんでしたが、確実に自信を持った「悔し涙」だと感じました。

予選リーグ順位のかかったブラジル戦に勢いそのままに勝利を掴むことができました。リオでのオリンピック開催が決まり、名ヘッドコーチに率いられたブラジルも着実に実力を上げています。2008 年に来日した時（日本の１勝２敗）とはメンバーも実力もガラッと変わっていました。

ここで予選リーグ２勝３敗でオーストリアを押さえて４位となり、プレジデントカップ（順位決定リーグ）13 位～ 16 位決定リーグに臨みました。しかし予選リーグＢグループの中で負傷者が出たこともあり、スピードとチームワークで全員で戦いに挑みましたが、結果が出なかったことにつきまして、皆様にお詫び申し上げます。

その後、帰国のスケジュールの中で決勝戦の行なわれるマルメの本会場で、本選ラウンドファイナルの地元スウェーデン対デンマーク、ポーランド対クロアチアの試合を全員で観戦しました。12000 人の収容のマルメーアリーナは、14000 人の観客で埋まり、大変な盛り上がりでした。「日本もこの舞台で闘うんだ」と全員が身の引き締まる思いでありました。

我々の当面の目的はアジア№１になりオリンピックに出場することであります。まずはアジアで勝つことです。私はアジア大会、そして今回の世界選手権を通じて、男子の強化につきましては、まずは更にフィジカルをアップさせ、１対１のディフェンス力、１対１のオフェンス力の原点をつくること。そして、何回も言いますが、「高く、重たく、スピード」のあるアジア勢に勝ち抜くには、国内合宿では限度があります。出来る限り海外で合宿を行ない、ピークのコンディションでオリンピック予選に挑むこと、この２点だと思います。

皆様の一層のご理解ご協力をお願い申し上げる次第であります。

久々の世界選手権出場のこともあり、蒲生国際担当常務理事も選手団に同行し、ハッサン・ムスタファ会長、前ランス会長、ロカ・マス第１副会長、ティアブ副会長、マンスール副会長（アフリカ）、オリベイラ副会長（ブラジル）、マズーク CCM 委員長、ルンド PRC 委員、グリーン WC 組織委員他、スウェーデン組織委員会、各国選手団の役員等たくさんの皆様と親しく交流が出来ました。これも今後国際活動に生きてくるものと考えます。

団長として専務理事として臨んだ世界の舞台で、日本がやらねばならない様々な課題が明確になったことが収穫の一つと考えています。改めてひとつひとつ皆様と共に解決していくことを心に誓ったところであります。

今回の世界選手権出場にあたり、たくさんの皆様のご支援、ご理解、ご協力を賜りましたことを改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

第 22 回世界選手権スウェーデン大会

男子日本代表チーム監督　酒巻 清治

新年１月２日（日）昼過ぎに味の素ナショナルトレーニングセンターに 19 名の選手たちが集合した。世界選手権スウェーデン大会に出場するためである。前回出場がチュニジア大会であることから３大会ぶりの世界への挑戦である。昨年２月ベイルートで開催されたアジア選手権にて出場権を獲得して以来、世界の強豪との対戦を心待ちにしてきた。前回出場経験者が豊田・宮崎の２名のみであり、初出場組が 17 名とチームの大半を占める。いかに世界の強豪と戦うか不安を抱えながらのスタートを覚悟していたが、19 名の選手たちの表情からは正月気分などは微塵も感じられず既に戦闘モード突入状態であった。

１月４日（火）味の素トレーニングセンターでの調整を終え、ANTC 職員、田中・市来両専任コーチ、新体操・吉岡コーチらの激励を受け、最終調整地であるデンマーク・ホーセンスへ移動した。

デンマークでのテストマッチは４試合、いずれもエリートリーグの強豪ぞろいであったが、２勝２敗と上位２チームには勝利を収め、中位２チームには敗戦という結果に終わった。

課題としてあげられる「集中力の欠如」によるテクニカルミスの発生がいかにゲームを左右するか選手たちの自覚を促す意味では、満更でもない結果であった。以前筑波大学で実施した野外活動の際、担当教授から言われた「このグループは難敵を前には一致団結して実力以上の力を発揮するが、ハードルの低い課題に取り組む時には集中力を欠くケースがある。」という話を思い出したものである。そうであれば世界選手権では大丈夫ではないか、眼前に現れる相手はいわゆる「難敵」だらけである。

宮崎の怪我を除いて、これといった故障者や体調不良者もなく、１月 11 日予選リーグ開催地であるリンシェーピングに到着した。大会が準備した選手づき「マッツ・スベンソン」は私がスウェーデン滞在中お世話になったクラブの部長であり、住まいはマルメにあり家族全員が世界選手権のサポートをしている。

初戦のノルウェー戦から振り返ってみるが、いかに大会に馴染むかゲームへの入りが一つのカギであったが、さすがにノルウェーも手堅くなかなかペースを譲ってくれない。後半に入り硬さが取れてきたが、前半の失点が最後まで尾を引いてしまった。しかし同時に「闘える」という多少の自信が芽



生えたのか翌日のオーストリア戦はスタートから終始ゲームをコントロール出来た。33年ぶりに欧州勢からの勝利ということで「サプライズ」扱いをメディアからされたが、現場はそれほどの驚きでもなかった。なぜならば日本選手の機動力を苦手とするタイプであると分析していたからである。3戦目は休養日明けのアイスランド戦、この「休養日」が日本にとって最大の敵となってしまった。アイスランドに十分な準備時間を与えることになってしまったからである。日本対策としてスピードのある選手を配置、世界選手権の2試合以外に3試合準備した試合内容を分析した結果の対応である。優勝を目指す国にこれほど準備をさせたという点では「評価」出来ても、世界のトップ特に集中力の違いをまざまざと見せつけられた。結果は完膚なきまでに叩きのめされた。第4戦はメインラウンド進出をかけたハンガリー戦である。パワフルなテクニシャンを揃えた布陣は日本にとって脅威以外のなにものでもない。前半は全く勝負をさせてもらえない。

後半10分過ぎ日本のDFシステムに変化を持たせたあたりから、ハンガリーの攻撃陣に隙が出来た。このラスト20分は今大会のベストパフォーマンスであり、本来日本が目指すべきスタイルをほんの少し確立した瞬間であった。敗れはしたものの大会6位のハンガリーの喉元まで迫ったパフォーマンスが予選ラウンド最終戦のブラジル戦に生きた。

ブラジルについては情報不足の感があるかもしれないが、欧州では世界で最もハンドボールレベルを成長させていると評価されている。ハンガリー戦の敗戦により初のメインラウンド進出の野望は打ち砕かれたが、ブラジル戦は是が非でも勝利を収めプレジデントカップに臨みたい。パフォーマンスの内容自体はオーストリア戦やハンガリー戦ほど濃くなく、多少のミスも発生したが、勝利にかける執念はチーム全体みなぎっていた。ハンガリー戦同様後半の重要局面でのDFシステムチェンジが奏功し、何とか勝利を収めグループ4位でプレジデントカップに進んだ。このまますんなり順位を上げて帰国したかったがそれほど甘くはなかった。ロンドン予選突破に向けて現時点で日本チームが抱えている課題が浮き彫りになった2試合であった。エジプト・アルジェリア共に大型GKを起用。予選ラウンドで2mを超える大型GKに対する7mを含めたフリースペースでのシュート確率が低いことを見透かされての起用であった。重要局面でゴールゲット出来ず焦りからミスを繰り返し自滅に近い形で連敗し、最終順位を上げられず16位という結果に終わった。

大会を通じて十分通用する部分と現時点での課題が浮き彫りになった。これはある程度予想していたことであったが、世界の強豪国相手により明確にさせられたことが今後の強化に十分生かすことが出来る。

私は世界選手権に向け選手たちにあるお願いをした。大会期間中での振る舞いについてである。今大会期間中の日本代表選手の「姿勢」に感謝したい。世界選手権での経験値の多い少ないは関係なく「日本人の代表」として世界と闘ってくれた。IHF並びにSHFからの称賛がこれを物語っている。

最後に、今大会参加に向け年末年始不眠不休でサポートに回って頂いた日本協会事務局、国旗を片手に日本から駆け付けてくれた恩師並びにANTC市来専任コーチ・JOC伊藤ディレクター、シーズン期間中にも関わらず惜しみなく代表選手並びにスタッフを派遣下さった所属チーム、本当に有難うございました。この場をお借りし御礼申し上げます。皆さんに応援して頂いた選手たちは全力で闘いました。今大会得た自信をより大きく育み、ロンドン予選は必ず突破する。

世界選手権を終えて

男子日本代表キャプテン　末松　誠

第22回世界選手権が1月13日から30日の期間で開催されました。

私達、日本代表はアジア選手権を3位で通過し、今大会に挑みました。今大会は世界の強豪国を相手にメダルを獲得する事を団長以下、スタッフ、選手全員の目標として掲げました。

予選リーグ初戦は、ヨーロッパでも強豪のノルウェー。参加した日本代表選手で世界選手権という大きな舞台を経験したのはごく僅かで、ほとんどの選手が初参加の中、試合が進みました。スウェーデン開催という事で、会場は非常に多くのハンドボールファンに埋めつくされ、大観衆の声援の中、スローオフで試合が始まりました。中盤は逆転のチャンスこ

そ得たものの相手の高い壁に阻まれ得点できず、終始リードされたまま試合終了となりました。

初戦から世界の壁の厚さに圧倒された日本でしたが、第2戦目のオーストリア戦では国民の期待に答えるようにと全選手が奮闘しました。立ち上がりから先制は許すものの相手のミスからの速攻が決まり、攻撃では大黒柱である宮﨑選手の気迫溢れるシュートで勢いにのることができ、前半を 18 対 11 と7点リードで折り返しました。後半、ヨーロッパ強豪のオーストリアは、簡単には勝利を譲る相手ではなく、力強いプレーで次々と得点し、追い上げられそうになる場面もありましたが、日本は得意とするスピードハンドボールで応戦し、最後は 33 対 30 で勝利することができました。次の対戦相手は前回の北京オリンピックで銀メダルを獲得したアイスランド。前半から大量リードを許し、全く日本のリズムに乗れないまま試合終了となりました。

ハンガリー戦では中盤で良い流れを引き寄せるものの相手の高い技術に苦戦し、いずれも勝利を掴むことができませんでした。これで予選リーグ敗退が決まった日本ですが、自分達のスピードハンドボールを世界で通用させたいという全員の想いを込め、リーグ最終戦のブラジルでは、気持ちをコートで表現し、観戦している観客に日本のスピードを披露し勝利することができました。

予選リーグを敗退し、順位決定戦へ進んだ私達は、少しでも良い結果を残そうと試合に挑みましたが、エジプト・アルジェリアにいずれも力及ばず、今大会を 16 位という結果で終わってしまいました。

私達、日本代表は目標には及ばなかったものの、今回の世界選手権を通じて、様々な経験をしました。世界の技術や力強さ、そして世界で活躍する選手のワンプレーに拘る強い姿勢。日本のハンドボールを世界で通用させるためには、今回、目で見て体で覚えた経験を忘れず次に生かさなければなりません。そして、目標であるロンドンオリンピック出場に向けて日々努力していきます。更には、現日本代表が日本ハンドボール界の先頭に立ち、これからトップレベルを目指す若い世代に、この経験を伝えていかなければならない責任があると感じています。

次のオリンピック予選、また世界選手権では、今よりさらにレベルアップした日本代表に生まれ変わり、日ごろから応援してくださる全ての人に、素晴らしい結果を報告出来るように日々努力していきます。

戦　評

ノルウェー　35（18 − 13、17 − 16）29　日本

立ち上がり、大観衆の声援と緊張などから0対3とリードを許す。15 分までに武田の速攻、東長濱秀希・門山・宮﨑・富田らの得点で7対9と2点差まで詰め寄る。中盤は GK 甲斐の連続セーブで逆転のチャンスを得るもののシュートを相手 GK にセーブされ、点差を詰めることができない。前半終了間際、ノルウェーに連続退場者が出る間に得点するが 13 対 18 と5点ビハインドで折り返す。

後半も GK 甲斐のセーブから徐々に点差を詰め、8分過ぎに岸川の得点で 20 対 22 と2点差とする。このよい流れを継続したい日本だったが、フィニッシュが決まらず 16 分で 24 対 31。その後、門山の連続得点や東長濱秀作・野村らの得点、さらに GK 松村の体を張ったセービングで勝利への執念を見せるが時間が足りず 29 対 35 で試合終了。

【得点】 7点：門山、6点：豊田、4点：富田、3点：宮﨑、2点：野村、東長濱秀希、東長濱秀作、1点：武田、岸川、森

日本　33（18 − 11、15 − 19）30　オーストリア

立ち上がり、オーストリアに先制されるが、岸川・武田の速攻と宮﨑のミドルが決まり3対1。さらに村上・豊田らの得点で7対3とリードする。10 分過ぎ、オーストリアはタイムアウトを請求。立て直しを図ろうと宮﨑にマンツーマン DF をしかけるが、広くなった DF の間を門山が崩し、9対5。ここから、GK 松村の4連続セーブでさらに点差を広げたいところだがシュートが決まらず失点し、9対9の同点。しかし、これまでのアグレッシブな DF が相手の体力を消耗し、OF のミスを誘うと8分間オーストリアの得点を許さない。その間に末松の3連続速攻を含む6連続得点で 15 対9。前半終了間際にも武田・豊田のパスカットなどから宮﨑・門山らが得点し 18 対 11 で前半を折り返す。

後半、オーストリアは DF を6－0に戻し対応してくるが、宮﨑－富田のコンビプレーや GK 篠内の7mT セーブなどで会場を沸かす。しかし、オーストリアも諦めることなく徐々に点差を縮め 11 分で 23 対 19。この状況を凌ぎたい日本は豊田－宮﨑のスカイプレーや東長濱秀希の7mT などで得点し、残り 10 分で 30 対 25。その後も GK 松村の好セーブなど DF が踏ん張りを見せると OF では東長濱秀作らの得点で残り5分、31 対 27。ラスト2分半、オーストリアはダブルマンツー DF で最後の反撃を仕掛けてくるが、門山・豊田が冷静にゴールを決め 33 対 30 でオーストリアに勝利した。

【得点】 8点：宮﨑、5点：末松、門山、4点：豊田、富田、2点：村上、武田、1点：岸川、東長濱秀希、東長濱秀作

アイスランド　36（22 − 8、14 − 14）22　日本

立ち上がり、先制されるものの宮﨑・豊田の得点で2対4。3分過ぎに相手のミスでチャンスを得るが、得点することができないと6分過ぎからはアイスランドのハードな DF に対し OF ミスが続き、12 分までに2対 12 とリードされてしまう。その後、東長濱秀作・富田・村上らが得点するが点差が

縮まらず、前半を 8 対 22 で折り返す。

後半、末松・東長濱秀希らの得点で 11 対 23。さらに GK 松村が好セーブを見せ、野村・門山らの得点で 16 対 26。機動力を使い相手の体力を消耗させたいところだが、ミスから逆速攻で失点し 20 分で 19 対 30。残り 5 分、野村・東長濱秀希・門山の 3 連続得点するが、地力に勝るアイスランドに 22 対 36 で敗戦。

【得点】5 点：門山、4 点：野村、3 点：冨田、東長濱秀作、2 点：宮﨑、東長濱秀希、1 点：豊田、末松、村上

ハンガリー 28（13 － 8、15 － 16）24 日本

試合開始直後、宮﨑－豊田のスカイプレーを見せるが、惜しくもラインクロスで得点にならず。村上のサイドシュートで先制すると、宮﨑、豊田らの得点で 7 分で 4 対 4 と互角の展開。しかし、ミスからの連続失点で 20 分までに 8 連続失点で 4 対 12 とリードされてしまう。その後、東長濱秀作・秀希が得点。DF も足が動きだし、GK 松村の連続セーブもあり前半を 8 対 13 の 5 点差で折り返す。

後半、昨日の試合同様に反撃を仕掛けたい日本だが、5 連続失点があり 9 対 19 と 10 点差にされてしまう。しかし、DF システムを 6 － 0 に変更するとこれが相手のミスを誘い、宮﨑・末松・野村の 3 連続得点で 14 対 21。GK 松村がシュートを顔面に受け、負傷退場するものの交代で入った甲斐が好セーブを見せ、失点を抑える。その間、冨田・東長濱秀作らが得点し、徐々に点差をつめ 19 対 25。最後まで DF が踏ん張り、野村・末松・宮﨑の得点で 3 点差まで追い上げる。さらに岸川らの速攻が決まるが 24 対 28 で試合終了。

【得点】5 点：宮﨑、4 点：末松、3 点：野村、東長濱秀作、2 点：豊田、村上、東長濱秀希、1 点：岸川、冨田、門山

日本 33（13 － 12、20 － 20）32 ブラジル

立ち上がり、プレーにやや硬さが見られたが、宮﨑・豊田・末松・冨田らの得点で 7 分までで 5 対 5 の同点。中盤以降もお互いに 1 点を争う展開になり、17 分で 10 対 10 の同点。その後、日本が退場者を出す間に失点し、10 対 11 とリードされる。しかし、今度はブラジルに退場者が出ると野村・末松の連続得点で 13 対 11 と逆転。前半終了間際に 7mT で失点するが、13 対 12 で折り返す。

後半もキャプテン末松を中心に、東長濱秀希・野村らが得点を重ね 10 分まで 21 対 21 の同点。DF では武田を中心にアグレッシブな DF を見せ、18 分、末松の速攻で 26 対 25 と 1 点リード。その後も攻撃の手を緩めることなく、岸川・東長濱秀作らの得点で 30 対 28。残り 5 分を切り、30 対 29 とまた 1 点差にされる。さらに日本が一人少ないときにパッシブプレーの予告。ここでエース宮﨑がフリースローから技ありのステップシュートを決め会場を盛り上げる。最後は岸川の豪快なミドルが決まり、33 対 32 で勝利。メインラウンドへ進出することはできなかったが、予選リーグ 4 位となり、13 ～ 16 位決定戦を戦う。

【得点】12 点：末松、6 点：冨田、3 点：豊田、宮﨑、2 点：岸川、野村、東長濱秀希、東長濱秀作、1 点：門山

▼ 13 － 16 位決定戦 1 回戦

エジプト 34（17 － 14、17 － 14）28 日本

立ち上がり、東長濱秀作から野村へのスカイプレーが決まり先制すると、東長濱秀作・海道らの得点で 4 対 2。5 分過ぎから冨田の速攻、野村・猪妻の得点、GK 松村の好セーブがあり 9 対 6 とリードする。しかし 12 分、ミスから連続失点で 9 対 8 とされると、エジプトに退場者がでてパワープレーのチャンスにも得点できない。さらにミスから失点が続き、22 分で 9 対 13 と逆転されてしまう。その後、岸川・末松が得点し、前半を 14 対 17 で折り返す。

後半、GK 甲斐のセーブから岸川が持ち込み、15 対 17。早い時間に追いつきたい日本だが、連続退場で得点が伸びない。中盤、甲斐の好セーブから猪妻・東長濱秀希・豊田の 3 連続得点で 22 対 25 と 3 点差まで詰め寄る。その後、末松・門山・猪妻らの得点するが追いつくことができず 28 対 34 で試合終了。

【得点】7 点：末松、4 点：猪妻、東長濱秀希、3 点：岸川、野村、2 点：豊田、冨田、1 点：海道、門山、東長濱秀作

▼ 15 － 16 位決定戦

アルジェリア 29（13 － 13、16 － 11）24 日本

立ち上がり、野村のカットインで先制するが、ミスから失点し 1 対 3。すぐに海道の個人技で 3 対 3 の同点に追いつく。しかし、12 分過ぎから連続失点で 5 対 9 とリードされる。16 分、アルジェリアに連続で退場者が出る間に、末松・冨田の得点、さらに GK 篠内の連続セーブから武田・海道の連続速攻で 9 対 10 と 1 点差に。その後、岸川・森らの得点が決まり前半を 13 対 13 の同点で折り返す。

後半、日本は DF システムを 6 － 0 に変更すると GK 篠内が DF との連携からアルジェリアのロングシュートを好セーブ。この間に豊田・東長濱秀作らが得点し 7 分まで 16 対 16 の同点。勝ち越したい日本だが、ここでミスと退場者を出してしまい 5 連続失点。その後、猪妻・東長濱秀希の連続得点で 18 対 21。交代して入った GK 甲斐の連続セーブから門山・森らの得点で 22 分に 23 対 24 の 1 点差まで詰め寄る。このよい流れを継続したいところだったが、シュートミスなどから流れに乗れず 22 対 26 と点差を広げられてしまう。最後まであきらめずに末松・海道が得点するが、24 対 29 で試合終了。

【得点】6 点：海道、3 点：森、門山、2 点：豊田、末松、東長濱秀作、1 点：武田、岸川、冨田、野村、猪妻、東長濱秀希


「第62回全日本総合ハンドボール選手権大会」は、全て写真提供：スポーツイベント社

平成22年度
第62回 全日本総合 ハンドボール 選手権大会 女子の部

ソニーセミコンダクタ九州が初優勝！

第62回全日本総合ハンドボール選手権大会（女子の部）を終えて

広島県ハンドボール協会理事長　山本　一

第62回全日本総合ハンドボール選手権大会女子の部は、平成23年1月19日から22日迄広島市東区スポーツセンターで開催された。

今回大会は、女子のアジア選手権が平成22年12月19日から25日までカザフスタンで開催されたため、男女同時開催でなく女子だけの大会であった。

参加チームは例年通り日本リーグ勢6チーム、ジャパンオープン上位2チーム、学生から4チームの計12チームの参加。日本リーグ勢は、3試合総当りのリーグ戦を2試合消化しての大会でプレーオフ進出を目指すチームにとっては気合の入る大会となった。夏のジャパンオープンを制した香川銀行は、7月の実業団選手権大会で日本リーグ勢の一角を破り4位となった実力を再び発揮し、実業団チームの存在を高めるための大会であり、同大会2位の徳山クラブは今年開催される山口国体に向けて弾みをつけたい大会であった。一方、インカレ上位4チームが参加した大学勢はインカレ初優勝の大教大、2位の大体大の関西勢に加え、関東の日体大、筑波大が出場。学生チームはシーズン終了後、最上級生を欠き入試の関係で練習もままならない状態での参加チームもあったが、今大会では日本リーグ勢を破るなど健闘が光った。

ベスト4は予想通り、日本リーグ勢が占め準決勝2試合は白熱した試合が展開され場内を沸かせた。

決勝戦はいずれも準決勝で接戦を制したソニーセミコンダクタ九州とオムロンの戦いとなった。5連覇中のオムロンに対し、後半終了間際に2点差のビハインドを追いついたソニーが延長戦にもちこみ、延長前半に3点を挙げオムロンの猛追を振り切り初優勝をとげた。

大会を終えて思うことは、全日本総合という日本で最も権威のある大会としては、各チームがベストコンディションではなかったということは残念である。日本リーグ勢を除き他のチームは公式試合から相当な時間もたっていて、大会へのモチベーションを維持することは困難であったことと思われる。

ただ、私にとっての救いの一言はある大学の先生がチームは一部の4年生が卒論など学業のため出場できず、また練習時間も少ない中での大会出場ですが、彼女達はコートに立てばハンドボール選手の本能で勝つために一生懸命プレーするんですよと言ってもらったことである。



優勝チームのコメント

ソニーセミコンダクタ九州
ハンドボール部ヘッドコーチ　郭　惠靜

まず、今回の開催にあたり、ご尽力戴きました関係各位、地元広島県協会の皆様のきめ細やかな大会運営に感謝申しあげます。

2011年の最初の大会である第62回全日本総合ハンドボール選手権大会に優勝できた事をとても嬉しく思っています。今回、長年にわたりチームを支えて頂いた相馬オーナーの定年退職が決まっており、是が非でも優勝を、の気持ちで日本リーグのブレーク期間の約2ケ月間は全日本総合に向けて、徹底して若手の底上げを目標に走りこみとDFの強化に取り組んでまいりました。選手一人一人が個々の役割を考え練習に取り組んで来た事の成果が出た大会だったと思います。

大会準決勝の広島メイプルレッズ戦では後半9分に、ポスト高栖が相手選手との接触で負傷退場するアクシデントもありましたが、新人錦織が高栖の穴を埋め、DFでは2年目の川崎がしっかりとフォローしてこのピンチを乗り越えることができました。

決勝戦では、延長戦に縺れる厳しい戦いでしたが、自分達のやるべき事をしっかりミーティングの中で意思統一し徹底できた事、選手が最後まで粘り強く頑張ってくれましたし、ベンチ入りできない選手が試合に臨むために一生懸命サポートに徹してくれたことも優勝の一つの原動力となったことは云うまでもありません。

それから、何よりも日頃から応援をいただいております社員の皆様、ファンの皆様からの後押しによって、苦しい戦いに勝利することができました。この結果に満足することなく更に進化していけるチームにしていきたいと心から思っております。

引き続き、ソニーセミコンダクタ九州ハンドボールチームBLUE SAKUYAに皆様方のご支援ご声援の程、よろしくお願い申し上げます。

ソニーセミコンダクタ九州
ハンドボール部コーチ　小藪 憲次

第62回全日本総合選手権大会を優勝という最高の結果で終えることができ大変嬉しく思っております。これも日ごろから応援してくださっている方々や関係者のおかげだと感じております、この場をおかりして厚く御礼申し上げます。

準決勝・決勝とも一点を争う試合展開となり、非常に苦しい場面もありましたがチーム一丸となったことが初優勝した一番の要因だった思います。また、この大会で若手選手の活躍もあり収穫の多い大会となりました。

これからシーズン終盤となり、白熱した試合が続くと予想されますがこの総合での優勝を大きな自信とし、より一層練習に取り組み決して驕らず常に初心を忘れないよう、そしてまたチーム一丸となり、今年度最後のタイトルであるプレーオフに挑みたいと思います。

今後もより一層ソニーセミコンダクタ九州のご声援宜しくお願いいたします。

最後になりますが、この大会を運営・サポートしていただきました広島県協会並び関係者をはじめ、皆様にお礼申し上げます。

試合結果・戦評

▼1回戦

香川銀行T・H	27（11－10、16－11）21	大阪体育大学
日本体育大学	24（12－13、12－7）20	三重ﾊﾞｲｵﾚｯﾄｱｲﾘｽ
大阪教育大学	24（14－10、10－11）21	HC名古屋
筑波大学	24（12－9、12－10）19	徳山クラブ

▼準々決勝

ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州	32（14－9、18－7）16	香川銀行T・H
広島ﾒｲﾌﾟﾙﾚｯｽﾞ	31（18－5、13－11）16	日本体育大学
オムロン	36（13－10、23－12）22	大阪教育大学
北國銀行	29（16－5、13－6）11	筑波大学

▼準決勝

ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州　26（16－11、10－13）24　広島ﾒｲﾌﾟﾙﾚｯｽﾞ

［戦評］日本リーグ勢同士がぶつかる準決勝の第1試合、ソニーと地元メイプルレッズの対戦。メイプルのスローオフで開始された試合の序盤、メイプルは新城の得点で幸先の良いスタートを切り3点を先行するが、ソニーが追いつき、その後一進一退の攻防となる。中盤、ソニーの固いディフェンスをメイプルが攻めあぐねる中、ソニーが速攻で点を重ね10対6と差を広げる。終盤メイプルのキーパー田口が再三ファインセーブをするも、オフェンスのミスにより差を広げられ、ソニーが16対11の5点差で前半を折り返した。

後半に入り、両チーム退場者を出す中、両チームキーパーが良く守り、ややゲームが膠着したまま中盤に入る。終盤メイプルは両サイドからの攻撃で2点差まで追い上げるが、ソニーのキーパー飛田がファインセーブで追い上げを阻む。残り30秒で1点差となるが、ソニーが26対24と2点差をつけ勝利。

オムロン　21（10－9、11－11）20　北國銀行

［戦評］日本リーグ勢同士がぶつかる準決勝の第2試合、北國銀行とオムロンの一戦。オムロンのスローオフで開始された試合の序盤、オムロンが7番藤井のミドルなどで4点を連取し流れを掴む。しかし、開始10分に初得点した北國銀行が4番上町の鋭いシュートなどで徐々に追い上げ、18分に同点に追いつく。一進一退の攻防が続き、前半10対9の1点差でオムロンがリードし折り返す。

後半、東濱のシュートで幸先よく得点すると、流れはそのままで、GK山中が7mTを阻止すると2番城内の速攻、7番藤井の7mTなどで開始10分後には16対10と点差が開く。粘りを見せる北國銀行がじりじり追い上げオムロンの守りをかき乱し、オムロンが2人の退場者を出し、北國銀行が20対19と1点差まで追い上げるが、時すでに遅し、21対20でオムロンが勝利した。最後まで見ごたえのある一戦だった。

▼決勝

ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州　27（11－11、12－12）25　オムロン
（3－0延長1－2）

［戦評］いよいよ最終日、決勝戦。V6を狙うオムロンと初優勝を狙うソニーとの対戦。どちらも先に主導権を握り、試合を優位に進めたいが、先取点を挙げたのはオムロン。続けてターンオーバーから速攻で連取するが、ソニーも7mTを確実に決めて、応戦。7分までどちらも手堅い立ち上がりで2対2とロースコアの展開。ここから中盤にかけて一進一退の攻防がつづく、ソニーは5番田中を中心にすばやい攻めを見せる。対するオムロンもポスト巻が効果的な動きで得点をあげ対抗。16分まで8対7とソニーが僅差のリード。その後も攻守の切り替えの早い激しい展開の中、23分にはオムロンが10対9と逆転。26分ソニーも長野が打ち込んで10対10の同点に、緊迫した攻防が続いた。その後、どちらも譲らず前半を11対11で折り返した。

後半、7分まで13対13と息詰まる攻防。両者一歩も譲らない展開の中、ソニーは11分に大黒柱の郭を投入、展開の打開を図るも、オムロンの固いディフェンスに阻まれ、抜け出すことができない。20分まで18対18と同点で終盤を迎える。ここから抜け出したのがオムロン、24分過ぎにポスト吉田が打ち込んで21対19の2点差に、しかしソニーも3番長野が決め、すぐさま1点差に、オムロンも東濱のミドル、3番高田の速攻で残り90秒で2点差にするも、ここから2名の退場者を出し、ソニーが終了20秒前に同点23対23。延長戦に突入した。



延長前半、パワープレーを生かして、ソニーが3連取、この試合はじめて3点差をつけ、優位に立ち、そのまま26対23で終了。延長後半に入り、必死に攻めるオムロンだが、GK中島の好守に阻まれ、得点をつめられない。ソニーも3連取のあとは、得点を挙げることができず、苦しい展開だが、終了間際7mTを田中が決め、歓喜のフィナーレを迎えた。最終スコアは27対25。ソニーは初優勝。

最終順位
優勝：ソニーセミコンダクタ九州（初優勝）、2位：オムロン、3位：広島メイプルレッズ、北國銀行

男子：長崎県選抜、女子：香川県選抜が共に初優勝を飾る

総評 大会を振り返り

第19回JOCジュニアオリンピックカップハンドボール大会 事務局長　中谷 秀将

第19回JOCジュニアオリンピックカップ（2010）ハンドボール大会が、12月24日（金）～28日（火）までの5日間、名古屋市にある「愛知県体育館」「枇杷島スポーツセンター」「東スポーツセンター」の3会場で開催され、全国9ブロックを勝ち抜いた男女各24チーム（全48チーム）が、急激に寒さの増した名古屋を熱戦の連続でヒートアップさせた。

本大会は、「春の全国中学生ハンドボール選手権大会」や「夏の全国中学校総合体育大会」とは異なり、各都道府県が選抜チームを構成して出場するため、これまで全国大会に登場することができなかったクラブ登録の選手などにも出場チャンスが与えられる大会である。近年では出場チーム数の増加にともない、中学校カテゴリーの集大成を発揮する全国大会としての地位も確立され、ハイレベルな試合展開で大変な盛り上がりを見せている。

また、「将来オリンピックや世界選手権で日本代表として活躍するジュニア選手の発掘と育成」という趣旨にもふさわしく、過去にこの大会で活躍した選手の中からも、多くの日本代表や日本リーグで活躍する選手が輩出されており、ジュニア世代の強化にも寄与する大会として注目を集めるようになってきた。

初日の開会式では、シンクロナイズドスイミング競技で日本代表として活躍し、アテネ五輪などで銀メダルを獲得した武田美保選手から、競技自体を好きになることや目標を持って練習に取り組むことの大切さなどを選手たちに話していただいた。

大会は、例年通り予選リーグを男女共に3チームずつの8ブロックに分け、各ブロックの1位が決勝トーナメントへ駒を進める方式で実施された。男子予選リーグでは、爆発的な攻撃力をぶつけ合う試合が多く、1試合あたりの両チーム合わせての得点平均が56.6点（1分1点以上のハイペース）。特に、Cリーグ山口選抜と熊本選抜の試合は両チームで81得点となるハイスコアを記録した。予選リーグ女子では、24試合中11試合が5点差以内（そのうち2試合は同点）という緊迫したゲームが多かった。

大会4日目には、決勝トーナメント準々決勝および準決勝が行われ、予選を勝ち抜いた8チームが頂点を目指して一層ハイレベルな試合（延長戦が2試合）を展開した。男子では、夏の全中を制した地元平針中学校を主体とする名古屋選抜が、昨年度に続き地元での連覇を果たすかに注目が集まった。しかし、夏に苦杯をなめた日吉中学校と小島中学校がうまく融合してチーム力をアップさせた長崎選抜が準々決勝で名古屋選抜を撃破。そのまま勢いに乗って頂点へ登り詰め、長崎に初優勝をもたらした。優勝には手が届かなかったが、兵庫選抜・岩手選抜・埼玉選抜らも高い身体能力や戦術が光った。

女子でも、春・夏と2冠を果たした地元平針中学校を主体する名古屋選抜の3冠に注目が集まった。しかし、同じく夏に苦杯をなめた香川第一中学校を主体とする香川選抜が準決勝で名古屋選抜を撃破。決勝でも光陽中学校を主体とする福井選抜を圧倒して、香川選抜が初優勝を果たした。今大会は、夏の大会からの勢力図が大きく変化する結果となり、「都道府県下をあげての強化」の全国的な広がりやその重要性を強く感じさせられる大会であった。

名古屋開催が2年目を迎え昨年の反省も生かしながらよりよい大会になるようにと県内・市内のスタッフ一同尽力してまいりましたが、至らなかった点はご容赦いただければ幸いです。来年度、名古屋開催が一区切りを迎え、第20回の記念大会にもなるということですので、より一層すばらしい大会となるよう準備を進めていきたいと思います。

最後になりましたが、年末の慌しい中、全力を尽くしてプレーした選手や応援していただいた保護者の皆様、指導を重ねてこられたチームスタッフの皆様、大会役員や審判員後援いただいた企業・団体・個人の皆様、県内スタッフや補助役員の中学生など多くの方々の支えで、大会が大いに盛り上がり、無事終了することができたことに深く感謝したいと思います。本当にありがとうございました。









最終順位

【男子】

優　勝	長崎県選抜
準優勝	兵庫県選抜
第3位	埼玉県選抜
	岩手県選抜

【女子】

優　勝	香川県選抜
準優勝	福井県選抜
第3位	名古屋市選抜
	埼玉県選抜



男子優勝：長崎県選抜

長崎県 JOC ハンドボール監督　東　耕二

この度、第19回JOCジュニアオリンピックハンドボール大会におきまして、長崎県勢としては初の全国優勝という最高の結果を果たすことができました。これも日頃よりご支援、ご協力をいただいた長崎県ハンドボール協会関係者の方々、学校関係者の方々、保護者の方々のおかげであると深く感謝しております。

今年のチームは春の選抜、夏の全国大会にいずれも出場した日吉中学校を中心に、そのライバル校である小島中学校と大野中学校の３校で選抜チームを結成しました。特別大きい選手もおらず、全員が普通の中学生でしたが、ハンドボールが好き、どこのチームにも負けたくないという気持ちはどこの都道府県の選手にも負けていなかったと思います。と同時にこの子達と「日本一」を成し遂げたいと、練習を重ねるうちに私の気持ちも高まってきました。私自身も十数年中学生を指導してきましたが、特にこのJOCの選抜チームに関してはなかなかチームがまとまらないということがありました。やはり、その予想は当たり、九州予選では、思わぬ苦戦をしいられ代表決定戦で何とか全国への代表権を勝ち取ることができました。

しかし、九州大会後の練習から徐々に子どもたちの目が変わっていきました。週２、３回の練習しかできない３校の選抜チームが「１つのチーム」になっていくのが練習から伝わってきました。私も常に「日本一」という明確な目標を伝えてきました。すると、試合に出る選手だけではなく、声を出してチームを盛り上げる選手や試合以外の面でサポートできる選手等、本当にいい意味で勝つ集団になってきました。そして、臨んだ全国大会。初戦の香川戦のアップの時から子どもたちのいい表情を見て「よし、いける！」と確信を持つことができ、予選リーグを突破しました。最大の山場であった決勝トーナメント１回戦の名古屋選抜との試合。前半からDFから得意の速攻が決まり、ゴールキーパーも要所で止め、後半まで一度もリードを許すことなく戦えた快心のゲームでした。９月の結成から４ヶ月の間で、１番最高のゲームだったと思います。何より選手の「戦う気持ち」が伝わってきたゲームでした。その後も埼玉、兵庫とも続けて勝利し一気に「日本一」に駆け上がることができました。

人生の中で１度できるかできないかの貴重な経験をした子どもたちには、自信と誇りを 持って、支えてくださる方々への感謝の気持ちを忘れずに、これからも大きな舞台で活躍してほしいと心から願っています。

女子優勝：香川県選抜

香川県選抜女子チーム監督　平野 雅也

第19回JOCジュニアオリンピックカップ2010ハンドボール大会で、優勝することができましたことを大変嬉しく思います。日頃から私どもの活動にご理解をいただき、ご支援していただいております香川県ハンドボール協会、学校関係者、保護者の皆様、そして、応援をしてくださった方々、本当にありがとうございました。また、合同練習などで胸を貸してくださいました県内外の高校のチームや近隣の選抜チームの皆様､心から感謝いたします。ありがとうございました。

３年生にとっては、中学校最後の大会になりますので、悔いの残らない試合ができることを切に願っていましたが、大会前は､まさか優勝できるとは夢にも思っていませんでした。香川県には女子チームが９チームしかありませんので選手層は薄く、また、３年生は厳しい受験戦争に直面していますので、多くの時間をかけて練習をすることはできません。そのため体力を落とさないように筋力トレーニングなどは各自で行い、週に１～２回の全体練習で集中的に効率よくチームを強化していくことに努めました。そのような少ない練習の中で、いろいろなことを確認し合い、連携を深め、一人ひとりの役割を自覚し、全うするようになりました。そして、本大会に入ると、チーム全体にこれまでにないような意気込みを感じました。一人ひとりがプレーの面だけでなく、精神的な面でもたくましくなり、また、試合に出ている選手だけでなく、それを支える２年生の選手全員もチームのために機能していました。そして、スタッフと選手間の信頼関係も厚く、迷うことなく一つになって試合に臨むことができました。しかし、予選リーグから決勝までの５試合すべてのチームが強豪で、どの試合も厳しいものでした。挑戦者として、『守って速攻』の日頃からのプレーに徹しました。選手たちは、何よりも強い気持ちをもって全ての試合に挑んでいきました。決勝トーナメント１回戦と準決勝では最大６点差あり、しかも退場者がいるという状況から逆転するという試合運びでしたが、自分たちがやってきたことを信じ、仲間を信頼し、最後まであきらめることなく闘いぬいたことがこのすばらしい結果につながったと思っています。今回の香川県選抜は、決して日本一強いチームだったからではなく、日本一いいチームであったからこそ優勝に結びついたと確信しています。

最後になりましたが、この大会の運営に携わってくださった役員の方々や補助員の皆様に深く感謝いたします。



週に１、２回と満足のいくものではありませんでしたが、地元の高校生や県外の選抜チームとたびたび練習試合をすることで成長していきました。このような経験がなければ、この大会での優勝はなかったと思います。私たちの練習に関わってくださった方々に本当に感謝しています。

香川県選抜女子チーム主将　谷　華花

第19回JOCジュニアオリンピックカップ2010ハンドボール大会において、優勝できたことを本当にうれしく思っています。今回の香川県選抜チームは、香川一中が主体のチームでした。私は、香川一中でも主将を務めさせていただきました。私たち香川一中は、春の全国中学生ハンドボール選手権大会、夏の全国中学校ハンドボール大会の両方に出場することができました。しかし、春の全国大会は福井県の光陽中学校に競り負け２回戦敗退、夏の全国大会では富山県の西條中学校に１点差で敗れ、準決勝敗退という悔いの残る結果となりました。

私たちは、その時の悔しい思いを忘れず、大会までの期間を集中して練習に取り組みました。メンバー全員での練習は、週に１、２回と満足のいくものではありませんでしたが、地元の高校生や県外の選抜チームとたびたび練習試合をすることで成長していきました。

また、今大会の予選リーグから富山県選抜と対戦するということで、夏の全中のリベンジをするという強い気持ちを持って、試合に臨むことができました。楽な試合は一つもありませんでしたが、しかし、勝っていくごとにチームが一つになっていくことを実感しました。このような素晴らしいチームの主将をさせていただけたことを誇りに思います。

今回、私たち香川県選抜が優勝できたのも、熱心にご指導してくださった平野先生をはじめとする多くの諸先生方や今まで陰で支えてくれた家族、また大会を運営してくださった方々など、たくさんの人たちのお陰だと感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。これからは、みんな別々の道を歩んでいくことになると思いますが、一人ひとりがこの香川県選抜の一員であったという誇りを忘れず、それぞれの道でがんばっていきたいと思います。

戦評

【男子決勝】

長崎県選抜　37（19－13，18－15）28　兵庫県選抜



前半立ち上がり４分、長崎・兵庫ともに譲らず、２対２の同点。ここからペースを握ったのは長崎。④今村のカットイン、⑧田中の速攻などで４連続得点をあげて、６対２と４点をリードする。対する兵庫も⑤細川のミドル、⑩永川のロングなどで食らいつき、長崎に一方的なリードを許さない。15分を過ぎ､12対９､長崎リード。前半残り10分、長崎のバックプレーヤー陣が兵庫の３－２－１DFの間を力強く突破し出すと、流れは徐々に長崎へ傾く。前半は19対13、長崎の６点リードで折り返した。

後半、兵庫③田原迫のロングが連続で決まり、19対15と兵庫の追撃ムードが高まる。しかし、長崎はあわてることなく試合を展開すると、７分過ぎ、④今村から始まる５連取で29対18と一気にリードを広げる。その後も展開力のある速攻や高い個人技で優位を保った長崎が勝利。37対28で優勝に輝いた。

【女子決勝】

香川県選抜　24（12－5，12－9）14　福井県選抜

序盤、主導権を握ったのは香川。②谷のカットインで先制すると４連続得点、前半６分には４対０とリード。一方動きに固さが見られセットオフェンスがかみ合わなかった福井もタイムアウト直後、⑤酒井のサイドシュートでこの日１点目をあげると反撃開始、15分には７対４と香川に喰らいつく。早く追いつきたい福井、リードを広げたい香川、ここでペースをつかんだのは香川。GK①馬場が福井のサイドシュート、速攻、ノーマークを何度となくシャットアウト。また、寄せの速い集中したDFで福井の攻撃を押さえ込んで、速攻へつなげ確実に加点。前半を12対5、７点リードで折り返した。

後半立ち上がり５分、前半同様４連取に成功した香川は、16対５とさらにリードを広げる。対する福井は、12分過ぎからの⑥荒井、⑤酒井のサイドシユートなどで、４連続得点をあげ、19対12、追撃をはかる。しかし、最後まで走りきった香川の優位はゆるがずタイムアップ。女子決勝戦は24対14、香川県選抜が勝利をおさめた。





兵庫県選抜・宮下貴司選手

――兵庫県選抜は雰囲気がとても良いみたいですね。

中学校２年生の頃から一緒にやってきたメンバーだからだと思います。だからチームワークに困ったことはないし、ベンチの雰囲気も良いです。

――今日の試合（準決勝・岩手県選抜戦）、ファインセーブの連発でしたね。

前半が終わって岩手県にリードされていたので、「やってやろう」という思いで後半に入ったのが良かったと思います。本番では緊張してしまう方ですが、今日は特に気合が入っていたので良いプレーができました。

……準決勝・岩手県選抜戦の後半、決定的なシュートをことごとくセーブし、試合を決める活躍を見せた宮下選手。また、兵庫県選抜ベンチが試合中に見せていた陽気な姿（応援歌を熱唱し続けるなど）が今も目に焼き付いています。

長崎県選抜・豊福要人選手

――決勝戦を振り返って、いかがでしたか。

中学校最後の試合でチームみんなが一つになって戦って、その結果優勝することができて本当によかったです。

――今日の試合のポイントはどこにあったかと思いますか？

チームの一人ひとりが同じ意識をもって行動したことだと思います。



……こちらもチームワークには自信をもっていたという長崎県選抜。決勝戦では間断なく得点を重ねていく一方で、豊福選手の再三に渡る好守で兵庫県選抜の攻撃を封じていました。

香川県選抜・馬場敦子選手

――決勝戦を振り返って、いかがでしたか。

全中では思うような結果を残せていなかったので、この大会では勝ちたいと思っていました。でも正直なところ、ここまで行ける（優勝できる）とは思っていませんでした。

――今日の試合のポイントはどこでしたか。

後半になって、相手チームに退場者が出たところだったと思います。そこでのシュートは全部止めるつもりでいました。

――中学校最後の大会を終えたいま、どのような気持ちでしょうか。

応援してくれた全ての人に感謝したいと思います。

……優勝を飾り喜びを爆発させた直後に、周囲に対する感謝の言葉を口にした馬場選手。頭が下がります。その一方で、「相手が一人少ない時間のシュートは全て防ぐ」という言葉から、勝負師としての凄みを感じさせられました。

女子決勝戦を担当・青木忠久審判員

――決勝戦を振り返って、いかがでしたか。

接戦を期待していたのですが、意外にも点差が開いたゲームになりました。勝負というものはやってみないと分からないものだなと、つくづく思いました。

――今大会で笛を吹かれて、どのような印象を持たれましたか。

優勝候補と言われていたチームが比較的早い段階で敗れることが多かったので、どのチームも勢いをもっていたように思います。

――中学校最後の試合を担当されていますが、どのようなお気持ちでしょうか。

３年生にとっては中学時代最後の大会にあたるので、こちらも身が引き締まる思いがします。

――中学生のプレーをご覧になっていて、どのようなご感想をお持ちでしょうか。

中学生とはいえ、実業団にも負けないようなスピードがあると感じます。技術面等も含め、全体的にレベルアップしてきているように思います。

……選手たちの試合を最も近くから見ている青木審判員は、彼らの競技力の向上を感じ取っているようです。なるほど彼らが見せる速い展開は、ハンドボールの魅力の一面をふんだんに表現していたように思います。

中学生たちが特別な思いを持って臨む今大会。それを支える人々の温かさもまた、我々は記憶に留めておくべきではないでしょうか。

第2回アジアビーチゲームズビーチ ハンドボール競技

最終順位 【女子】1位 中国／2位 タイ／3位 ベトナム／**4位 日本**／5位 インドネシア
【男子】1位 クウェート／2位 パキスタン／3位 タイ／4位 オマーン／5位 カタール／6位 ヨルダン／7位 バーレーン／8位 インドネシア／9位 チャイニーズタイペイ／10位 アフガニスタン／**11位 日本**

団長兼女子監督　大原 康昇

第２回アジアビーチゲームズビーチハンドボール競技がオマーン国の首都マスカットで12月８日（水）～16日（木）に開催され、男子（選手10名、役員３名）・女子（選手10名、役員２名）の総勢25名が日本代表として参加しました。平成21年度末に川上専務、西窪強化部長、福地学連理事長らと協議し、国内３大会と世界選手権を参考にチーム編成と合宿を行い、12月４日に成田を発ち、５日の昼頃に選手村に到着、ロビーにて地元オマーンチーム（男子）より練習試合の申し込みがあり、長旅の疲れもあり練習は行わない予定でしたが、今後のこともあり検討した結果、午後４時からであればと承諾しました。地元チームと交流できたことで大会までの練習は何とか行うことが出来ました。ただ、AOC、JOCの管理下で行う大会にしては全てがアバウトで、組み合わせ表に至っては３回も変更があり、それも大会前日のテクニカルミーティングの場で女子は発表、男子は抽選でした。11時から始まったテクニカルミーティングも終わってみれば午後３時半を回っていました。

いく度か大きな大会を運営した私にとっては信じがたい事柄が多くあったし、正確な情報を得るのに神経を使いました。本来の団長であるべき本間氏が事故の為、本大会に参加できなかった事は大きな痛手でしたが、選手から登録の関係で役員スタッフに回ってくれた高嶋、篠田君らが良く気がつき助かりました。試合結果は別項の通りですが、男子については、予選リーグのＢグループは５チームの実力が接近しており、紙一重でした。ただ、男子のレフェリングについては疑問を感じました。スポーツはあらゆる面でフェアーでなければ発展はないと思われます。女子については中国、タイには組織力の差を感じた。しかしながら、もう少しの練習と確実なターンシュート（２得点）を身につければ上位チームと対等に試合が出来ると感じました次第です。

オマーン在住の服部様始め、多くの日本人会皆様の応援もあり、選手諸君は良く頑張ってくれましたが、我々の指導の至らなさでこのような結果になり申し訳なく思っております。今後、ビーチハンドを益々発展させる為にも、強化計画も継続的に行うと共に、指導者においてもビーチ専門の継続的な指導者が重要であると思われます。

最後にアジアビーチゲームズに参加させて戴いた日本ハンドボール協会関係各位に深く御礼を申し上げます。



女子代表選手　坂元 智子



今大会に望むにあたり、国内合宿などを行ってきましたが、メンバーが一般、学生となかなか時間が取れず細かい部分のコンビなどに不安をもったまま大会へと出発しました。

大会に行ってからも参加国、日程がギリギリまで決まらないという状況で、試合までどのように気持ちをもっていってよいのか、また練習をどのようにもっていけばよいのか大変悩みましたが、個々がしっかりと意識を高く持っていてくれたので、試合までモチベーションを下げることなく初戦を迎えることができました。（参加国：５ヶ国）

初戦は高さのある中国との戦い、この試合で勝って波に乗れればと思っていたのですが、小さい私たちに対し高さを使ったスカイプレーやロングシュートに苦しみ、最後までそれが守りきれず初戦を白星で飾ることができませんでした。

その後のタイ、ベトナム戦では、反省を活かしメダルを獲得するためにも、勝ちに拘った戦いをすると試合に臨んだのですが、シュートまでいくものの相手GKに幾度となく阻まれ得点に繋がらず、後半も立て直すことができず敗戦。

残り１試合を残していたものの勝てないことにチーム全体に焦りや不安の色が出ていました。しかし、最終戦の前にこのメンバーで試合ができるのはこれが最後、このチームで、このメンバーで１勝しようと皆で話し試合に臨んだ。ゲーム立ち上がりから、全員が積極的にシュートを狙いにいったり、アグレッシブにDFをしかけたりと最後まで自分たちのリズムで試合を運び、何とか１勝することができ、色々なプレッシャーや不安から解放された感じでした。

今大会で勝つことの難しさを痛感させられましたが、経験の少ない私たちにとっては大変貴重な大会だったと思います。この経験を今後の大会でも活かし、メダルが狙えるようなチーム作りができればと思います。

最後に今大会に向けてご支援していただいた皆様に感謝します。ありがとうございました。

男子監督　齊藤 光男

今回の大会については、21年度末、日本ハンドボール協会の方針として、日本ハンドボールリーグ・アジア大会、全日本選手権大会等の予定を考慮し、学生中心の選手で全日本チームを構成することに決定した。そして、22年６月の第14回ビーチハンドフェスタスプリングカップ富浦さざ波大会、８月の第14回ビーチハンドフェスタサマーカップ富浦さざ波大会、同じく８月の全日本ビーチハンドボール選手権大会（神戸）の

出場選手の中から優秀な選手10名を選考することにした。その結果、優勝した日体大より7名、2位のFSTより3名の選手を選考した。そして、その後5回の合宿を行い本大会に備えた。

現地には12月5日昼少し前に到着。その日は休養に充て時差ぼけを解消することにしていた。しかし、地元オマーンチームより早速練習試合を申し込まれ、検討した結果、予選リーグではオマーンとは対戦しないので4時過ぎで良いならということで承諾した。その後9日からの本試合の前に、予選リーグでは対戦しないとされたインドネシア、ヨルダン、クウェートチームとも練習試合をし、本番に備えた。練習試合においては良いゲームができ、特にインドネシア、クウェートには勝利することができ、手応えは充分であった。

しかし、8日のテクニカルミーティングにおいて、試合の組み合わせは事前に伝えられていたものとは全く異なることがわかった。しかも、当初出場予定のフィリピン、インドは出場せず、出場予定のなかったパキスタンが出場するなど参加チームの変更についても初めて知らされた。その場で抽選が行われ、日本はAブロック（日本・オマーン・バーレーン・クウェート・チャイニーズタイペイ・カタール）となった。そのため、予選リーグで対戦予定がなかったので練習試合をしたチームと本試合で対戦することとなってしまった。第1日目に地元オマーンと、2日目にはクウェートとも対戦することになり、ずさんな大会の運営にスタッフ及び選手ともに大いにとまどわされた。

1日目のオマーン戦は、アウェイであり観客はすべてオマーン選手を応援するのは当然だが、そのため日本選手は固くなり、練習試合の時のような試合運びができず、シュートミスも多くなり相手のペースで試合が終わってしまった。2日目のクウェート戦は、練習試合で勝利していたこともあり、選手はリラックスして試合ができていた。しかし、1セットは勝利したものの2セットは敗戦、ショットアウトになり勝てるゲームであったが惜しくも5対6で敗戦してしまった。3日目のバーレーン戦は、前日のクウェート戦敗戦がショックだったのか、日本選手のミスが多かった。特に2セット残り2分まではリードしていながらミスで逆転されてしまったのは悔やまれる。4日目のチャイニーズタイペイ戦は、1セット目は消極的なプレーで負けてしまったが、2セット目は積極的にプレーするよう全体で話し合った結果、全員が良く動き勝つことができた。ショットアウトもゴールキーパーが活躍し、9対6でようやく1勝を挙げることができた。5日目のカタール戦は、この試合に勝てば7位決定戦に進めるので全員で頑張ろうとミーティングで話し合い試合に臨んだ。1セット目は最後までもつれたゲームであったが負けてしまい、2セット目も最後18対18でゴールデンゴールになるが、ジャンプボールを相手に取られ、結局敗戦した。

結果としては、1勝4敗が3チームあり、得失点差で6位となり順位決定戦には進めず、11チーム中11位で終わってしまった。試合を終えて、選手達は、6月からのゲーム・合宿と競技を始めて半年とは思えないほど動きが良くなった。もう少し経験を積み、練習をしていれば充分に勝てたと思われる試合もあった。また、戦術についても、6月の女子世界選手権等の情報が少しでも入手できていたなら、また違った戦術が立てら



れたかと思われる。というのは今回の試合でも、海外ではあのようなことがルール上許されるのかと思われる戦術が多々見られたからだ。また何よりも、アジアビーチゲームズという大きな大会にもかかわらず、組み合わせや審判の判定、時間に関する件などルーズでずさんな面が非常に多く、スタッフ一同驚愕させられた。しかし、試合では敗戦が多かったものの、困難な状況の中、選手・スタッフが一丸となり充実した試合ができ、次につながる良い体験ができたと言える。

最後に、本大会出場にあたり、川上専務を初め、協会の皆様、日本体育大学松井先生、その他関係の方々には大変お世話をいただいた。あらためて心より感謝申し上げるとともに御礼申し上げたい。深謝。

男子代表選手　松本　賢

私たち日本代表メンバーはアジア大会経験者の社会人選手と日本体育大学の選手で編成し、3回の合宿を通じてベテランの経験と学生の身体能力・テクニックが融合した好チームとなりました。

日本の戦術はオフェンスGK東江のステップシュートとゲームメイクを中心にフィジカルを生かした川口、左利きの有利さを生かした小川、土井の高確率のピルエットシュート、スカイシュートでゴールを狙うこと。ディフェンスはクロスアタックDFから藤井、前田、長谷川のシュートブロックとGK小松とのコンビネーションでセーブすることでした。また経験豊富なGK小松は第3セットのショットアウトが得意であり、日本はどんな試合展開にせよ1セット奪ってショットアウトに持ち込めば有利というモチベーションがありました。この戦術は大会直前のトレーニングマッチでも通用し、クウェートに引き分け、インドネシアとヨルダンに勝利と好調でした。

しかし本大会では勝ち点を計算できる国が無い強豪国のグループに入ったこともあり、予選リーグ1勝4敗。1勝4敗が3ヶ国並びましたがセットカウント数で劣り、予選リーグ6位、最終順位11位という残念な結果となってしまいました。悔やまれる結果でしたがチャイニーズタイペイにショットアウトで勝利したこと、強豪カタールに惜敗、優勝したクウェートにはショットアウトまで持ち込み1点差まで追いつめた戦いは私たちの自信と経験となりました。この経験は次回以降の日本代表に伝えていかなければなりません。私も微力ながら対抗策を考えていきたいと思います。

最後に、日本代表男子の強化にサポートして頂いた日本協会関係者の皆様、代表合宿に協力してくれた前日本代表FSTの選手、大切な時期に選手を参加させて頂いた日本体育大学の松井監督にこの場をお借りしまして御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

全日本実業団ハンドボールチャレンジ 2011

最終順位

優勝：トヨタ自動車	7位：大阪ガス
準優勝：トクヤマ	8位：ブラザー工業
3位：金沢市役所	9位：豊田自動織機
4位：新日鐵名古屋	10位：マツダ
5位：八光自動車工業	11位：日本耐酸壜工業
6位：EHC	

総評・戦評　全日本実業団ハンドボールチャレンジ2011大会を振り返って

全日本実業団ハンドボール連盟理事長　**朝生 和光**

全日本実業団ハンドボールチャレンジ2011大会は、福井県ハンドボール協会様の多大なご尽力を賜り2月10日～13日の3日間にわたり、北陸電力フレア体育館にて開催いたしました。

今回で42回目の開催となる本大会は、1970年に第1の大会を愛知県で開催させて頂いて以降、全国各地で開催している歴史ある大会であります。このように無事42回大会を迎えられましたのも、福井県ハンドボール協会様ならびに、大会関係者の皆様、協賛いただきました企業様、他多くの方のご尽力・ご協力の賜物であり心から感謝とお礼申し上げます。

さて今大会は初出場のEHC（愛媛ハンドボールクラブ）の参加もあり、昨年より1チーム多い11チームの参加で連日熱戦が繰り広げられました。

昨年準優勝のHC愛媛Armada、第3位の高知クラブが未出場となったため、前年度優勝チームの八光自動車が優位に勝ち進むかと思われたが、トヨタ自動車との初戦で敗退するなど波乱の幕開けとなり、各チーム勝ちに拘ったレベルの高い大会であった。

また、今年度の特記事項としては「アジアハンドボール連盟大陸レフェリー」の資格認定の実技試験を本大会で実施したことが上げられます。今回のレフェリーコースに合格すると、アジア大会・アジア選手権等の国際大会でレフェリーを行う資格が与えられる事になり、日本のみならず、韓国・中国・タイのアジア各国から合計8ペアの若手レフェリーの参加がありました。

認定の結果につきましては、参加ペア全員が大会前から事前に行われた筆記試験・体力テスト、大会中の実技試験を見事クリアーし合格と言う素晴らしい結果となりました。また日本人女性レフェリーとしては初のアジア大陸レフェリーが誕生する事となりました。このような結果を踏まえると、本大会が次世代の国際レフェリー育成の場として活用され、ハンドボール界へ少しでも貢献できたのではないかと感じております。

来年度から「全日本実業団ハンドボールチャレンジ」大会は「全日本社会人ハンドボールチャレンジ」へと発展的に改称致します。これは社会人チームへ門戸を開き、多くのチームが大会へ参加して頂く事で、ハンドボールの普及・発展、活性化を目指す事を目的としております。

愛知県で開催される来年度のチャレンジ大会については、より広い範囲で参加を募り、多くのチームが参加できる大会運営を目指しますので、関係各位のご協力を宜しくお願い致します。

【3位決定戦】

金沢市役所ハンドボール部	23	12－9 11－10	19	新日鐵名古屋

立ち上がり新日鐵6番因幡・5番石川の2連取でリズムを掴むと思われたが、金沢市役所も7番油谷の活躍でお互い一歩も譲らない展開となる。

中盤新日鐵は金沢市役所のDFを崩す事が出来ず得点が止

まってしまい、そのすきに金沢市役所は７番油谷を中心に確実に得点を重ね、前半を12対９で金沢市役所が３点リードで折り返す。後半に入ってからは、取られては取り返すの緊迫した展開が続き、新日鐵はなかなか点差を縮めることが出来ない。試合終了間際に新日鐵17番濱田の２連取で追い上げるが、ここでタイムアップとなった。

【決勝】

トヨタ自動車 24 （11－11 / 13－９） 20 トクヤマ

決勝は初優勝を目指すトクヤマと、17年振りの優勝を目指すトヨタ自動車との対戦となった。

立ち上がりトクヤマ15番保科・２番前山らの得点によりリードするが、トヨタ自動車は７番香井・９番小林・11番倉田らで５連取し逆転に成功する。しかしトクヤマも６番中谷・19番前永の活躍により一歩も譲らず、11対11の同点で前半を折り返す。

後半に入ってもトクヤマは19番前永を中心に得点を重ねるが、トヨタ自動車もポスト・サイドを絡めバランスの良い攻撃で応戦する展開となった。中盤までは点の取り合いとなり、常に同点で試合が進んでいくが、15分を過ぎたあたりで得点の止まったトクヤマに対し、トヨタ自動車は５番高野・９番小林らで確実に得点を重ね徐々に点差を広げて行く。終了間際トクヤマ８番杉村のシュートで追い上げるが、点差を縮める事が出来ず４点差を守りきったトヨタ自動車が17年ぶり６回目の優勝を飾った。

優勝チームのコメント

心機一転、ゼロからのスタート！

トヨタ自動車株式会社監督　香井 隆悠

この度は、全日本実業団ハンドボールチャレンジ2011大会で優勝することができ、ご支援いただきました、関係者の方々、応援いただきました方々に深く感謝申し上げます。

私たちトヨタ自動車ハンドボール部は、2008シーズンは、日本リーグトップリーグに、参加させていただいていました。ところが、2009シーズンは、トップリーグより離脱、そして2010シーズンは、主力５名が他チームへ移籍、引退する等全くの新チームといって良いほど環境が変わる中、活動を続けてまいりました。

当然、戦力ダウンは否めず、練習への参加人数もままならず、ゲーム形式での練習など思うように出来ない日々が続いていました。

しかし、そのような状況の中でも、日々の練習を怠ることなく、愚直に取り組む選手たちの姿を見るにつれて、何とか「勝利」という結果をチーム一丸となって出したいという思いが日増しに強くなりました。

我々は、「70分走り続けられるハンドボール」「１人３ポジションの修得」「限界からの10%の努力」をスローガンとして掲げ、日々練習を行ってきました。そして、今大会では、試合を重ねるごとに、技術的、精神的に成長するチームを目の当たりにし、まだまだやれるという希望の光を見た気がします。これからも、ひとつでも「勝利」する為に、「元気に」「明るく」「愚直」に頑張って参ります。

今後も、トヨタ自動車グリフィンズの応援をよろしくお願い致します。最後になりましたが、大会運営にあたりご尽力いただきました大会関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



ロンドンオリンピックに向けて①

2012年7月27日から8月12日までイギリスのロンドンで開催される予定の第30回ロンドン大会。参加できるのは男女とも12チームであるが、どのような予選の勝ちあがりで出場ができるのか、2月末現在での情報を整理する。

1．参加チーム数は、男子12チーム、女子12チーム、選手数は男女共に14名／チームである。

2．選手の出状資格は、現行のオリンピック憲章の各条項を遵守する選手のみが、オリンピックに参加できる。IHF規則上、ナショナルチームでプレーする資格を有していなければならない。

3．出場資格を得るまでの予選のシステム（男女共通）を観ると

●2011年世界選手権　割当数1

●大陸予選　割当数4

アジア、アフリカ、ヨーロッパ、パンアメリカ　各大陸代表

各大陸選手権もしくは大陸予選における1位チーム

2011年世界選手権チャンピオン（もしくは2012年オリンピック開催国）が大陸予選でも優勝した場合は、大陸予選第2位のチーム。

●IHF予選会　割当数6

4チームずつによる予選会を3か所で開催

各予選会の上位2チームが出場権獲得

各予選会に参加資格のあるチームは次の通り割振られる。

2011年世界選手権チーム成績

予選会　1	予選会　2	予選会　3
2位	3位	4位
7位	6位	5位
A*	B*	C*
D*	A**	B**

A*　2011年世界選手権における最上位チームの所属大陸へ付与　五輪出場未確定で世界選手権7位までに入っていない、大陸予選上位のチーム

B*　2011年世界選手権において2番目の成績を収めた大陸へ付与

C*　2011年世界選手権において3番目の成績を収めた大陸へ付与

D*　2011年世界選手権において4番目の成績を収めた大陸へ付与

A**　上記A*に加えて、2011年世界選手権における最上位チームの所属大陸へ付与

B**　オセアニアのチームが2011年世界選手権において、8位から12位に入っていた場合は、オセアニア大陸選手権最高位の成績を収めたチームへ付与。

そうでなかった場合、上記B*に加えて2011年世界選手権において2番目の成績を収めた大陸へ付与。

2011年世界選手権において2位から7位に入ったチームが、既に五輪出場権を得ている場合は、同選手権8位のチームが予選会出場権を得る（複数ある場合は順次繰り上がる）。

●開催国1

開催国イギリスは2012年オリンピックにおいて、男女共に出場権を持つ。

4．出場確認プロセス

各大会終了後IHFは各国オリンピック委員会に、出場確認の為の連絡をする。

各国オリンピック委員会は2週間以内に確認する。

各国オリンピック委員会の出場確認期限

開催国	2011年1月31日
女子ヨーロッパ選手権	2011年1月5日
IHF男子世界選手権2011	2011年2月14日
男子女子アフリカ選手権	2011年3月（日にちは未定）
女子アジア五輪予選	2011年10月31日
パンアメリカン大会（男女）	2011年11月14日
男子アジア五輪予選	2011年11月29日
IHF女子世界選手権2011	2012年1月6日
男子ヨーロッパ選手権	2012年2月13日
IHF男子オリンピック予選	2012年4月30日
IHF女子オリンピック予選	2012年6月10日

5．行使されない出場権の再割当て

行使されない出場権は、出場権を与えられた大会で次点となった国のオリンピック委員会に割当てられる。

開催国出場枠が行使されない場合は、2011世界選手権（男女）開催の大陸に割当てられ、更に当該大陸でまだ出場権を得ていない、最上位国オリンピック委員会へ割当てられる。

6．予選大会日程

2010年12月7－19日	女子ヨーロッパ選手権（デンマーク）（ノルウェーが優勝し出場権を得る）
2011年1月13－30日	男子世界選手権（スウェーデン）（フランスが優勝し出場権を得る）
2011年2月	男子女子アフリカ選手権
2011年10月12－20日	女子アジア五輪予選（中国）
2011年10月13－30日	パンアメリカン大会（メキシコ）
2011年10月23日－11月3日	男子アジア五輪予選（韓国）
2011年12月3－18日	女子世界選手権（ブラジル）
2012年1月17－29日	男子ヨーロッパ選手権（セルビア）
2012年4月6－8日	IHF男子オリンピック予選
2012年5月25－27日	IHF女子オリンピック予選

《参考》2008年北京五輪最終順位

【男子】

①フランス	⑦デンマーク
②アイスランド	⑧韓国
③スペイン	⑨ドイツ
④クロアチア	⑩エジプト
⑤ポーランド	⑪ブラジル
⑥ロシア	⑫中国

【女子】

①ノルウェー	⑦ルーマニア
②ロシア	⑧スウェーデン
③韓国	⑨ブラジル
④ハンガリー	⑩カザフスタン
⑤フランス	⑪ドイツ
⑥中国	⑫アンゴラ

～地域密着と食の大切さ～

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw（フリースロー）

2015年の世界男子選手権の開催国にカタールが決まった。過去の例からすれば異例の速さと言っていい。

カタールという国名を聞いて、思い出すのがサッカーの“ドーハの悲劇”だろう。いまだにサッカー界では語り草になっているほどだ。そして最近の話題は、日本などが立候補した2022年のサッカー・ワールドカップ開催の招致に成功したことだ。

最近のカタールはスポーツの世界的イベント招致に積極的な活動をしている。これも06年のドーハ・アジア大会の成功で自信をつけたためだろう。潤沢な財政力で今度はどのような運営を世界に発信するか注目される。

話はまったく異なるが、最近のスポーツ界ではよく「地域密着」と言うことが叫ばれる。Jリーグがその先べんをつけたとも言えるが、言うは優しいが、これほど難しいものもない。地域に愛され、その先には観客動員につなぎたいとの思いがある。各競技団体ともあの手この手で試行錯誤してはいるが、なかなか思うようにはいかないのが現状だろう。

その中で注目されるのが、広島市が行っている学校巡りだ。「Do スポーツ」と名づけられたこの事業はいわば“出前講座”である。ハンドボールの湧永、メイプルやバレーボールのJTなどが集って日本で初めて誕生した「トップス広島」とタイアップして各学校で児童・生徒を指導している。

現在はそれぞれのスポーツの指導が中心。こういったことも日本のトップアスリートの訪問だけに、子どもたちから関心を持たれているし、観客動員にもつながる効果はある。

しかし、それだけでは将来的にはマンネリにつながりかねないのではなかろうか。

子どもたちの成長を助ける意味からも「食の講座」なども必要だろう。乱れた食生活は何も子供に限ったことではない。以前、あるスポーツイベントで見かけた“悲しい出来事”が頭から離れない。

日本でも有数のクラブの選手たちが、会場入りするなり“質素な朝食”を取り始めた。多くの人たちが参加している中での出来事はア然とするしかなかった。彼らの食に対するさびしい意識の一端を見た感じがした。これではとてもトッププレーヤーとは言えない。

朝食をとらない子どもが多いという。成長にも影響を与えるし、身体を動かすにしても辛かろう。競技の指導と合わせて「食事」がいかに大切かを話す機会を持ってはどうだろう。「食」の話は身近に感じ親近感が増すだろう。それが結果的にはクラブに興味が増し、地域密着につながれば万々歳だ。一つの手段では…。

平成23年度 事業計画

1．競技力向上（強化）に関する事業

【基本方針】
「アジア、世界で戦う体力強化と強靭な精神力の強化」
1．情報を共有化し各連盟、スクール、地域協会との連携を取り強化組織の構築を図る。
2．NTSでの指導者育成、選手発掘に再注力し、ジュニアアカデミーでの育成の強化を図る。
3．強化委員の役責を明確にし、各カテゴリー強化施策の進行状況の把握に努める。

【重点施策】
1．体力強化プロジェクトの発足
(1) JISS分析班、JHA強化分析班と連携を図りアジア、世界対策に努める。
(2) 各カテゴリーヘッドコーチと連携を図り栄養、体力強化の一貫指導に努める。
(3) 各カテゴリーのチーム、個々の強化指導案を作成する。
2．味の素NTCを活用したアカデミーでの教育
(1) 専任コーチの役割分担を明確化する。
(2) 定期的な海外遠征と国内強化合宿を実施する。
(3) 味の素NTCと連携を図り栄養管理の下、体力向上に努め指導及び各競技団体との連携を図る。
3．日本リーグチームとの連携強化
4．情報・科学サポート
5．医事専門委員会のサポート
6．アンチドーピングの徹底

2．普及·指導に関する事業

≪普及関係≫
【基本方針】
1．少年チーム（U-15,U-12）の創設と運営の活性化を促進する。
2．小学校教科ハンドボールの普及と授業実践の推進を図る。
3．生涯ハンドボール体系を確立させる。

【重点施策】
地域における指導者の掘り起こし
少年大会運営、チーム経営の基本的理念の検討
研究大会充実のための授業実践者の連携
小中学生の基本的な指導内容の提示
ビーチハンドボールの組織整備
マスターズ委員会の組織整備

≪指導関係≫
【基本方針】
1．指導者の育成（各指導者養成講座の開設）を推進する。
2．海外情報収集を海外派遣選手団等より積極的に行う。
3．ブロック・都道府県指導委員会の活性化を促進する。

【重点施策】
公認指導者組織の整備（養成・研修）
U-19までの指導体系の確立（小・中学生専門委員会との連携）
NTSとの連携
大学における指導者養成の拡充

3．競技運営に関する事業

【基本方針】
1．日本協会主催、共催大会及び国際大会の管理運営にあたる。
2．社会人連盟の進展を図る。
3．日本選手権構想を具体化する。
4．日本体育協会主導でなされている国体改革案に、ハンドボール協会の意見を反映させる。
5．競技用具、検定制度を充実させる。

【重点施策】
1．大会開催マニュアル、競技運営マニュアルの改訂、充実を図る。
2．競技役員の資質向上を図るため、競技役員講習会を開催する。
3．社会人連盟の業務を推進する。
4．協会内の国体改革の意見をまとめ、日本体育協会の改革案に協会の意見を反映させる。
5．競技用具の改良、開発を図り、検定制度を充実させる。

4．競技規則（審判）に関する事業

【基本方針】
1．レフェリーアカデミーの実質的な運用
(1) JHAレフェリーコース・A/B級公認審判員審査会との連係と体系化を図る。
(2) 全日本学生連盟との連係と体系化の強化を図る。
(3) NTS・JHAジュニアアカデミーとの連係を図る。
2．トップレフェリーの資質向上および育成
(1) レフェリー育成事業の実施および充実に努める。
(2) トップレフェリー研修会を開催する。
(3) 各カテゴリーの代表チーム合宿に極力参加する。
(4) 日本リーグを吹笛できる若いレフェリーを育成する。
3．競技規則の正しい運用
(1)「審判員の目標」を徹底させる。
(2) 国際事情の分析および伝達を迅速に行う。
(3)競技規則必携およびDVD(解説書)を発行する。
4．IHFレフェリー講習会への参加

【重点施策】
1．レフェリーアカデミーの推進
日本リーグ、社会人、大学、高校、中学等の各連盟にご理解とご協力を得ながらレフェリーアカデミーをさらに体系化する。
各全国大会においてレフェリーアカデミー生が吹笛する機会を設定する。
2．レフェリー講習会の内容充実と競技規則の正しい運用
レフェリーのみならずトレーナー、選手に正しいルールを理解してもらうことが必要であり、各地区のレフェリー講習会にトレーナー、選手の参加を働きかける。
3．IHFレフェリー講習会への参加準備
コンチネンタルレフェリーの育成と併せ、国内レフェリーにも最新の国際情報を提供する。
4．選手同様に審判員期日内登録の徹底
5．レフェリーアカデミーを卒業したレフェリーの積極的な起用と女性レフェ

リーの育成および全国大会へのノミネート

5．総務に関する事業

【基本方針】

新公益法人制度の2012年度移行に向け具体的活動を進めると共に、円滑な事業執行を行う為の組織と事務局の整備を行い、総務委員会案件はもとより、他部門とも連携強化を図り、事業進捗のスピード化を図る。

【重点施策】

1．新公益法人制度の2012年度移行に向けた対応
2．登録業務の簡素化、スピード化に向けたシステム変更
3．事業推進最適化に向けた組織と事務局の整備
4．環境保全活動の実践活動の継続
5．個人情報保護法の遵守と徹底

6．国際に関する事業

【基本方針】

1．世界各国のハンドボール連盟との連携を図り国際貢献に努める。
2．日本ハンドボール協会および各連盟、チームなどへの国際的活動支援を行う。
3．国際大会等の支援（連絡・交渉・情報収集）を行う。
4．国際会議への参加と支援を行う。

【重点施策】

1．IHF・AHF・EAHF総会出席とその連携
＊IHF管理のもと、公平な運営と公平なジャッジメント、国際移籍問題の検討
2．各国連盟とのレターのやり取り強化
3．レフェリー・テクニカルデレゲートのサポート
4．日本代表チームなどの海外国際大会の事務的なサポート
5．国際会議の開催と支援
6．外国の情報収集とその活用
7．海外移籍の事務的サポート
8．次世代の国際担当者の発掘育成

7．財務･会計に関する事業

【基本方針】

平成23年度も財政状況を取り巻く環境は非常に厳しく、収入源を見据えた予算執行を確実に実行しなければならない。収入面においては、マーケティング委員会を中心に、各委員会でも更に積極的な財源確保に取り組む必要がある。また各種助成金についても、今まで以上の有効活用を図る必要がある。支出面においても、集中と選択を念頭におき、効率の良い事業運営を推進して行かなければならない。

【重点施策】

1．適正な予算配分と管理
2．マーケティング委員会及び各委員会を中心とした各種運営費の積極的な財源確保
3．各種助成金の有効活用

8．広報に関する事業

≪広報事業≫

【基本方針】

1．ハンドボール注目度アップ、バリューアップに繋がる情報の発信を図る。
2．インターネット情報の充実・拡大を図る。
3．マスコミとの交流を拡大する。
4．協会事業の周知徹底を図る。
5．協会広報システムを構築し、スムーズな運営を図る。
6．記録整備のため大会撮影を積極的に行う。

【重点施策】

1．ホームページの充実
2．マスメディアへの積極的情報発信
・プレスリリース・記者発表・記者会見・定期懇談会の実施、回数アップ
3．インターネットと機関誌の連携強化、整備効率化
4．トップリーグ連携機構との連携活動
5．過去の記録のデーターベース化
6．組織の充実（人材確保および担当者の複数化･役割分担）
7．企画、マーケティングとの連携によるバリューアップ活動の推進

≪インターネット≫

【基本方針】

1．日本協会より発信すべきハンドボール情報を、インターネットを通じて一般の愛好者へタイムリーに発信する。
2．インターネットを活用した情報提供の充実を図るとともに、作業の効率化･スピードアップを図る。
3．新たな情報発信・円滑な運用のための体制づくりを確立する。
4．ウェブページのデザイン等を更新する。

【重点施策】

日本協会ホームページの充実

(1) ウェブサイトのリニューアルを検討実施する。
(2) 代表チームの情報発信の内容充実を図る。
(3) 試合結果等の情報発信のスピードアップと内容の充実を図る。
(4) 試合結果速報用掲示板を運用する。
(5) 新たな情報発信方法の検討と試行を行う。

ホームページ等、円滑な運用のための体制づくり

・より良いシステムを検討し、人材の補強等を考える。

9．機関誌発行に関する事業

【基本方針】

機関誌発行を通じ、都道府県協会・各

連盟等日本協会組織全体の情報共有化を図る。更には活動履歴の保管性を提供し、ハンドボールの指導・普及等の活動関係者に様々な関連情報を提供することにより、ハンドボール界の一層の発展に寄与する。

【重点施策】

施策方針・理事会・各委員会組織からの情報発信の場として、更に、都道府県協会からの情報発信の場として、機関誌の効果的な利用を追及する。

オリンピックアジア予選に向けての企画記事として一定の枠を確保し、自らの取材による記事掲載を推進する。

インターネット情報との密接な連携を図り、相互の情報の質を高めることで掲載内容の充実を図る。

大会報告記事では、単に報告にと留まらず大会にまつわる様々な状況など、大会周辺の様子にも着目した掲載を図る。

機関誌のあり方・掲載内容については適宜見直しを図り、常に機関誌の役割と特徴を意識した運営に努める（23年度も年間9回の発刊とする）。

10. 企画に関する事業

【基本方針】

日本ハンドボール協会の現状分析を行い、中期的視点で課題・問題点を抽出し方向性を示す。

各本部、各プロジェクトの連携を図り、統合して活動できる環境を整える。

【重点施策】

1．最大目標の強化の充実・整備（奨学金制度・強化システム・日本リーグ連携）
2．日韓定期戦の常設
3．ジャパンカップ2011の開催実施
4．競技者育成技術委員会の充実
5．社会人連盟の設立に伴う、日本ハンドボール協会の基盤の充実
6．創立75周年記念事業を計画立案
7．事務局業務の整備充実

11. マーケティングに関する事業

【基本方針】

ハンドボールのバリューアップを図る為に日本協会が行う施策を統括・立案・調整を行い、日本協会の大きな柱であるマーケティング収入の確保を図る。そのために、新しい価値の創出を図り実施に移す。

【重点施策】

1．マーケティング収入目標2,500万円
　協賛金（大会事業、オフィシャルスポンサー）
　ナショナルユニフォーム広告他
　物品販売、その他
2．オフィシャルスポンサー、オフィシャルサプライヤーの確保と拡大
3．既協賛企業はもとより新規協賛企業の開拓拡大
4．各種イベントの企画
5．オリジナルグッズ、DVD他の企画・販売
6．協会主催大会のマーケティング活動の指導・運営と協賛パートナーの拡大
7．JOC、トップリーグ連携機構との連携・協力による、マーケティング力の向上

12. 日本リーグに関する事業

【基本方針】

1．リーグ戦の活性化とレベルアップを図り、東アジア諸国との交流を通じ、国際競技力向上に寄与する。
2．地域と共に発展する日本リーグを目指す。
3．ハンドボール普及活動へ積極的に参加する。
4．日本リーグ中期ビジョンを具体化する。
5．メディア対策を更に充実させる。

【重点施策】

1．日本リーグ参加チーム拡大のため、クラブチームの指導・育成
2．リーグ加盟条件の見直し
3．チャレンジディビジョンの充実、拡大
4．ホームゲームの充実と地域との連携強化（開催地責任者・GM研修会の実施）
5．試合開催地におけるハンドボール教室の積極的開催
6．トップコーチ、トップレフェリー育成のための研修会実施
7．新たなファンサービスの開発
8．東アジアクラブ選手権のグレードアップ
9．スポンサー企業へのサービス充実
10．積極的なメディア対策の実施（プレスリリース、話題提供、情報交換会の実施）
11．日本トップリーグ連携機構諸事業への協力と他競技との連携

13.『がんばれ20万人会』サポート会員に関する事業

【基本方針】

「ハンドボール界総力をあげての日本代表応援」「ハンドボールのバリューアップ」という本来の目的を踏まえ、サポート会の拡大、拡充を図ると共に、各連盟、各都道府県協会との連携を図り、20万人を目指す。

【重点施策】

1．各連盟、各都道府県協会との連携強化による会員加入促進
2．会員への情報、サービスの拡充

平成23年(2011年)度　国内・国際大会日程

	大会名	開催日程（競技日）	開催地	開催場所
4月	※第8回東アジアクラブ選手権（男・女）	4/8（金）－4/13（水）	中国・山東省栄成市	日本リーグ男女優勝チーム
	※第3回日韓定期戦（男・女）	4/24（日）	韓国	男女N
5月	※ IHF 第33回総会	5/2（月）－5/5（木）	モロッコ・マラケシュ	
6月	※ジャパンカップ2011	6/17（金）－6/19（日）	東京都・渋谷区	東京体育館
	日体協公認上級コーチ養成講習会（専門科目）		東京都・北区	味の素ナショナルトレーニングセンター（予定）
7月	高松宮記念杯第1回社会人選手権 （第52回全日本実業団選手権大会）	7/13（水）－7/17（日）	北海道・函館市	函館市民体育館、函館大学体育館
	第31回全国クラブ選手権大会・西	7/16（土）、17（日）	静岡県・袋井市	静岡エコパアリーナ
	第31回全国クラブ選手権大会・東	7/16（土）、17（日）予定	福島県・本宮市	本宮市総合体育館・本宮体育館・ 本宮高等学校体育館
	※第18回男子ジュニア世界選手権	7/17（日）－7/31（日）	ギリシャ	不参加
	※第16回ヒロシマ国際大会	7/21（木）－7/24（日）	日本・広島市	東区スポーツセンター
	第24回全国小学生大会	7/29（金）－7/31（日）	京都府・京田辺市	京田辺市田辺中央体育館、同志社大学体育館、 同志社女子大学体育館（交渉中）
	高松宮記念杯第62回全日本高校選手権大会	7/29（金）－8/3（水）	岩手県・花巻市	花巻市総合体育館、花巻市民体育館、 富士大学スポーツセンター
8月	第19回全日本マスターズ大会	8/5（金）－8/7（日）	大阪府・大阪市	舞洲運動公園 （メインアリーナ、サブアリーナ、グランド）
	第16回ジャパンオープントーナメント（男女） 岐阜国体リハーサル大会	8/6（土）－8/9（火）	岐阜県・高山市（男子）、飛騨市（男子）、下呂市（女子）	飛騨高山ビッグアリーナ、 高山市立中山中学校体育館、桜ヶ丘体育館、 下呂交流会館、萩原あさぎり体育館
	西日本学生選手権大会	8/8（月）－8/12（金）	愛知県・豊田市	スカイホール豊田
	※第4回男子ユース世界選手権	8/11（木）－8/21（日）	アルゼンチン・	不参加
	NTSブロックトレーニング		各ブロック	
	第14回ハンドボール研究集会			
	東日本学生選手権大会	8/17（水）－8/19（金）	北海道・札幌市	きたえーる
	第40回全国中学校大会	8/17（水）－8/20（土）	京都府・京都市	京都市体育館、京都府立体育館、 京都府立伏見港公園総合体育館
	※第3回日韓小学生親善交流（受入）	8/22（月）－8/26（金）	愛知県・東海市	小学生
	※第19回日韓中ジュニア交流大会	8/22(月)－8/28(日)（24-26）	日本・名古屋市	中村スポーツセンター
	第38回全国高等専門学校選手権大会	8/27（土）、8/28（日）	神奈川県・川崎市	川崎市とどろきアリーナ
	第13回全日本ビーチハンドボール選手権大会	8/27（土）、8/28（日）予定	兵庫県・神戸市	神戸アジュール舞子浜
9月	※第11回女子ジュニアアジア選手権	9/14（水）－9/20（火）予定	未定	
	※第4回女子ユースアジア選手権	9/24（土）－9/30（金）予定	未定	
	※第15回日韓スポーツ交流（派遣／女子）		韓国	
	※日韓スポーツ交流（派遣／男子）		韓国	
	※第15回日韓スポーツ交流（受入／女子）		東京都・北区	味の素ナショナルトレーニングセンター
10月	第66回国民体育大会	10/7（金）－10/11（火）	山口県・周南市	キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター、 周南市熊毛体育センター、 周南市鹿野総合体育館
	※2012ロンドンオリンピック女子アジア予選	10/12（水）－10/20（木）	中国・常州市	Changzhou Olympic Sports Center Gym
	※2012ロンドンオリンピック男子アジア予選	10/23（日）－11/3（木）	韓国・ソウル	
	※日韓スポーツ交流（受入／男子）		東京都・北区	味の素ナショナルトレーニングセンター
	第36回日本リーグ（女子）	10/29（土）or 10/30（日） 開幕予定	各地	
11月	高松宮記念杯男子54回女子47回全日本学生選手権	11/2（水）－11/6（日）	岩手県・花巻市	
	第36回日本リーグ（男子）	11/12（土）開幕予定	各地	
	※第14回アジアクラブリーグ	11/19（土）－11/30（水）予定	未定	
	第9回日本車椅子競技大会	11/19（土）、11/20（日）	和歌山県・和歌山市	和歌山県立体育館
12月	※第20回女子世界選手権	12/3（土）－12/18（日）	ブラジル・ セントカタリーナ州	
	第63回全日本総合選手権大会	12/21（水）－12/25（日）	神奈川県・横浜市	横浜国際プール（スポーツフロア）
	第20回JOCジュニアオリンピックカップ	12/24（土）－12/28（水）	愛知県・名古屋市	愛知県体育館他
1月	NTSセンタートレーニング（高校生）	1/5（木）－1/7（土）予定	東京都・北区	味の素ナショナルトレーニングセンター
	NTSセンタートレーニング（中学生）	1/7（土）－1/9（月）予定	東京都・北区	味の素ナショナルトレーニングセンター
	※第15回男子アジア選手権	1/29（日）－2/12（日）予定	未定	
2月	全日本実業団チャレンジ2012	2/10（金）－2/12（日）	愛知県・名古屋市（予定）	予定：大同特殊鋼星崎工場体育館、 大同大学体育館
3月	第36回日本リーグプレーオフ	3/10（土）、3/11（日）案	東京都・世田谷区	駒沢体育館（案）
	第7回春の全国中学生選手権大会	3/24（土）－3/28（水）	富山県・氷見市	氷見市ふれあいスポーツセンター、 県立氷見高校体育館、県立有磯高校体育館
	第35回全国高校選抜大会	3/25（日）－3/30（金）	岩手県・花巻市	花巻市総合体育館、花巻市民体育館、 富士大学スポーツセンター

2011.02.20 現在　　※は国際大会

平成22年度　チーム数・選手数一覧表

2011/3/1 現在

	種別	一般L		一般A		大　学		高　専		高　校		中学生		小学生・少年団		リージョナル		合　計	
No.	都道府県	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数
1	北海道	0	0	13	215	39	575	2	43	58	1,189	16	417	6	107	10	149	144	2,695
2	青森県	0	0	11	201	6	102	1	33	19	403	6	117	0	0	0	0	43	856
3	岩手県	0	0	12	148	5	98	1	16	37	798	31	769	3	93	21	305	110	2,227
4	宮城県	0	0	6	96	12	214	1	17	41	1,000	20	448	4	49	1	13	85	1,837
5	秋田県	0	0	4	60	2	29	1	24	12	279	6	137	0	0	0	0	25	529
6	山形県	0	0	6	114	1	24	1	27	18	412	4	64	0	0	0	0	30	641
7	福島県	0	0	6	71	3	43	0	0	43	797	28	651	3	69	1	12	84	1,643
8	茨城県	0	0	5	85	4	73	0	0	56	977	35	703	9	174	10	152	119	2,164
9	栃木県	0	0	4	59	3	38	0	0	19	337	13	318	4	107	0	0	43	859
10	群馬県	0	0	9	141	2	50	0	0	19	377	17	306	2	101	3	32	52	1,007
11	埼玉県	1	20	10	189	8	122	0	0	82	1,970	50	1,169	3	77	1	26	155	3,573
12	千葉県	0	0	5	93	8	179	0	0	62	1,227	32	635	9	178	3	44	119	2,356
13	東京都	0	0	22	395	48	1,042	2	24	146	3,001	68	816	9	143	54	904	349	6,325
14	神奈川県	0	0	12	200	15	354	0	0	151	2,662	99	2,029	13	203	9	121	299	5,569
15	山梨県	0	0	5	73	4	59	0	0	27	508	14	259	3	84	7	84	60	1,067
16	長野県	0	0	6	83	5	93	0	0	30	481	9	222	2	66	0	0	52	945
17	新潟県	0	0	5	72	6	78	1	13	11	220	3	25	2	22	2	21	30	451
18	富山県	0	0	7	112	4	60	1	24	23	440	34	670	18	261	5	69	92	1,636
19	石川県	1	18	10	148	4	71	2	49	24	480	22	636	1	57	3	43	67	1,502
20	福井県	1	16	5	78	2	31	1	19	16	329	13	324	6	83	1	15	45	895
21	静岡県	0	0	11	167	1	18	1	15	44	1,133	6	168	3	44	1	24	67	1,569
22	愛知県	4	72	13	234	27	501	1	28	240	5,882	202	4,731	16	133	2	31	505	11,612
23	三重県	1	16	6	84	3	47	2	45	41	827	27	671	9	125	1	15	90	1,830
24	岐阜県	0	0	10	153	5	127	1	30	49	1,070	52	1,139	8	268	0	0	125	2,787
25	滋賀県	0	0	6	86	4	83	0	0	23	550	14	356	0	0	1	12	48	1,087
26	京都府	0	0	5	77	18	291	1	32	35	710	27	484	18	462	16	129	120	2,185
27	大阪府	0	0	8	132	39	444	1	30	109	2,392	57	1,014	9	242	0	0	223	4,254
28	兵庫県	0	0	8	135	11	207	1	18	85	1,582	29	696	8	175	11	152	153	2,965
29	奈良県	0	0	5	86	7	123	1	22	25	522	16	247	5	96	0	0	59	1,096
30	和歌山県	0	0	8	118	2	32	1	29	18	321	14	196	3	75	5	53	51	824
31	鳥取県	0	0	3	44	1	16	1	25	16	308	6	281	0	0	1	12	28	686
32	島根県	0	0	2	29	1	21	1	30	11	203	4	61	1	2	0	0	20	346
33	岡山県	0	0	14	223	7	164	1	24	53	1,122	16	353	15	268	4	48	110	2,202
34	広島県	2	39	8	123	7	100	1	12	19	364	9	188	4	121	6	73	56	1,020
35	山口県	0	0	8	137	1	15	2	56	29	625	21	455	5	239	6	92	72	1,619
36	香川県	0	0	4	69	3	78	1	23	22	412	20	367	5	153	0	0	55	1,102
37	徳島県	0	0	2	28	6	57	1	17	12	260	3	58	0	0	0	0	24	420
38	愛媛県	0	0	7	129	5	83	0	0	30	693	8	127	5	119	1	15	56	1,166
39	高知県	0	0	5	69	1	12	1	19	13	171	9	167	0	0	4	30	33	468
40	福岡県	0	0	6	83	12	234	4	107	48	1,092	23	543	7	77	0	0	100	2,136
41	佐賀県	1	16	4	49	1	14	0	0	14	231	7	63	2	34	0	0	29	407
42	長崎県	0	0	7	111	2	28	1	38	29	623	14	265	4	92	0	0	57	1,157
43	熊本県	1	20	4	65	4	67	2	39	57	1,135	36	762	21	451	0	0	125	2,539
44	大分県	0	0	6	68	3	38	0	0	11	187	13	268	13	142	0	0	46	703
45	宮崎県	0	0	3	48	3	28	1	18	35	590	19	263	8	132	8	68	77	1,147
46	鹿児島県	1	18	3	51	3	50	1	31	31	619	14	361	2	39	2	30	57	1,199
47	沖縄県	1	15	7	103	6	104	1	29	71	1,409	53	1,378	25	570	24	346	188	3,954
	合　計	14	250	336	5,334	364	6,317	43	1,006	2,064	42,920	1,239	26,377	293	5,933	224	3,120	4,577	91,257

2011年度（財）日本ハンドボール協会 登録にあたっての注意

登録により提出された個人情報は、本会及び本会加盟団体が、協会連絡資料の送付及び大会を実施する際の登録確認を目的に利用します。

1．2011 年度より Web 登録に切り替えます

Web ページオープン予定は、2011 年 3 月 10 日（木）11:00 を予定しています。但し、3 月 22 日（火）11:00 までは、都道府県協会、連盟の登録設定期間と致しますので、チームは、登録出来ません。都道府県協会は、それまでに設定を終えて下さい。

2．登録規定第 2 条にしたがって、チームおよび個人（チーム役員および選手）は日本協会に必ず登録して下さい。登録を行わなければ日本協会、各都道府県協会、または各協会・連盟が主催、共催する大会にチーム役員（部長、監督、コーチ、トレーナー、ドクター、マネージャー、主務）および選手として参加することは出来ません。また、選手がチーム役員として、あるいはチーム役員が選手として参加する場合は、それぞれチーム役員あるいは選手の登録もして下さい。

虚偽の記載（誤記であっても）があれば、日本協会懲罰委員会にかけられますのでご注意下さい。

3．種別について

(1)「一般L」について

日本リーグ加盟チームのことで、すべての大会に参加資格があります。

(2)「一般A」について

日本リーグ以外のすべての大会に参加資格があります。

(3)「リージョナル」について

都道府県内での大会のみ参加資格があります。「リージョナル」種別のチームに登録した選手は、国民体育大会（都道府県予選を含む）への参加資格はありません。

(4) 大学

全日本学生連盟に加盟し、日本協会に登録したチームおよび個人を指します。これ以外の大学生は、「一般A」または「リージョナル」登録となります。

(5) 高専

全国高等専門学校体育協会ハンドボール競技専門部に加盟し、日本協会に登録したチームおよび個人を指します。これ以外の高専学生は、「一般A」または「リージョナル」登録となります。

(6) 高校

全国高等学校体育連盟ハンドボール部に加盟し、日本協会に登録したチームおよび個人を指します。これ以外の高校生は、「一般A」または「リージョナル」登録となります。

4．日本協会登録料

種　別	一般L	一般A	リージョナル	大学	高専・高校	中学生・少年団	小学生・少年団
チーム	700,000 円	35,000 円	5,000 円	17,000 円	10,000 円	2,000 円	
チーム役員@*	2,000 円	2,000 円	2,000 円	2,000 円 学生チーム役員 800 円 **	2,000 円 ** 生徒チーム役員 500 円 **	2,000 円 ** 生徒チーム役員 500 円 **	2,000 円 **
選手@*	2,000 円	1,300 円	800 円	800 円 ***	500 円 ***	500 円 ***	

*　登録締め切り後の個人（チーム役員及び選手）の追加登録料は、登録時と同額です。

**　同学校(団体)の男・女両チームのチーム役員を兼任する場合は、登録料を 1 チーム分のみとする。同学校（団体）の学生（生徒、児童）をチーム役員として登録する場合は、登録料を選手と同じにする。

***　同大学の学生、生徒が選手とチーム役員を兼任する場合は、1 名分の登録料のみでよい。

5．登録期限について

5 月 20 日（金）を目途に登録を完了して下さい。追加登録は、登録完了後随時出来ます。新規チーム登録は、いつでも出来ます。

6．個人の登録チーム数について

(1) チーム役員は複数チームに登録できます。但し、登録料はそれぞれにかかります。特例として、同一の学校・団体（大学、高専、高校、中学、小学、少年団）において男子・女子両チームのチーム役員を兼任する場合は、登録料を 1 チーム分のみとします。

(2) 選手登録は 1 人 1 チームのみとし、複数チームに登録（重複登録)できません。重複登録は登録規定により懲罰の対象となります。但し、国民体育大会、その他、特別の選抜チームの登録については別に定めます。

7．国体登録について

日本協会登録用紙で登録手続きをされたチームが単独チームまたは 1 人以上補強して国民体育大会へ出場しようとする場合は、国体登録をする必要があります。但し、構成メンバーの年齢は、登録用紙の記載いかんに関わらずすべて「国民体育大会規定」の適用を受けるものとします。

8．登録証の発行について

(1) 登録したすべてのチーム役員および選手には、登録証を発行します。有効期間は当該年度末までです。紛失などで再発行する場合は、事務処理費として 500 円のご負担をいただきます。

(2) 登録証は日本協会に登録されたことを示す重要なものです。各種大会で登録証の提示を求めますので、試合の際は必ず登録証を持参して下さい。登録証の保管・所持には十分ご注意ご配慮をお願いします。

9．チームの新規登録について

新設（新規）チームの場合は、登録締切以降でもその都度登録を受け付けます。但し必ず各都道府県協会を経てお送り下さい。新設チームとは前年度に日本協会登録をしていないチームのことを言います。

10．チーム役員および選手の追加登録（新規）について

チーム役員および選手の追加登録はその都度認められます。追加登録は大会申込期日までに完了されていなければなりません。

11．選手の追加登録（移籍）について

(1) 当該年度にチームに個人登録し、そのチームをやめ、他のチームで再び競技をしたい場合は登録を一旦抹消し (13 項参照)、新チームで追加（移籍）登録をしなければなりません。

(2) 追加（移籍）登録の 1 度目は、当該年度内のいつでもできます。一度追加（移籍）登録をした場合は、当該年度 2 番目の登録チームに 3 カ月間在籍しなければなりません。3 カ月経過しなければ 2 度目の追加（移籍）登録はできません。

(3) 追加（移籍）登録をする場合は、

12．登録抹消について

所属チームをやめる場合は、登録抹消手続きをする必要があります。

13．連絡先、機関誌送付先変更について

登録料には機関誌代を含みます（リージョナルは除く、小学生は一部の号のみ）

なお、機関誌年度は、登録締切期限の関係から 2011 年 7 月～2012 年 6 月（1・2月、3・4 月、6・7 月は合併号、年 9 回発行）で、通常の年度と異なります。3，4 月の転勤・転居などの際は特にご注意下さい。

14．Web 登録でご不明の点は、サポートデスクを設定する予定です。また、Q&A のページも設ける予定です。

それまでは、メールにて registration@handball.jp に送付下さい。Q&A ページに掲載するか、メールで回答するように予定しています。

2011 AHF大陸レフェリーコース報告

（財）日本ハンドボール協会審判部長　植村　彰

はじめに

2月7日（月）から2月14日（月）の8日間、福井県においてAHF大陸レフェリーコースが開催されました。日本での開催は、1999年広島市で行われた「ヒロシマ国際大会」以来の12年ぶりの開催となります。国内の国際レフェリーの高齢化とIHFが推奨するグローバルレフェリートレーニングプログラムから育った若手レフェリーの世界大会起用は顕著であり、また、その流れを考えて昨年4月より国内トップおよび国際レフェリーの育成を目的としたレフェリーアカデミーを立ち上げました。

この1年間、レフェリーアカデミーではレフェリー技術理論や講義等による座学、実技、全国大会での吹笛等の研修を積み国際レフェリー受験の準備を進めてきたところです。

同時に、AHFに対して日本国内での大陸レフェリーコース開催の準備が出来ていることを常にインフォメーションをしてありました。今回、タイミング良くAHFとの日程が合い、福井市で開催される、「全日本実業団チャレンジ2011」の大会をAHF大陸レフェリーコースに当てることが出来ました。

レフェリーコースの内容（日程表参照）

〔講義について〕

コースはすべてAHF/PRC Dawud Tawakoli氏が中心となり、通訳なしの英語による説明で展開されました。初日の受講生は緊張感漂う雰囲気に包まれ、慣れない英会話でのコミュニケーション不足も、時間の経過とともに和気藹々とした雰囲気に変わってきた。

講義は、2010年競技規則を中心に①罰則について8条および16条、②レフェリー技術、③7mスローと段階罰の付加、④ゴールエリア際の罰則、⑥パッシブプレー、⑦オフェンスファール、⑧アドバンテージ、⑨さまざまな場面での罰則等についての講義を受けた。

また、筆記テスト、DVDの映像を見てのテストなども組



み込まれていた。講義内容については、IHFから出された「2010年競技規則の変更資料」に基づくものであった。

AHF/PRCメンバーとしてのタワコリ氏の解説はたくさんの事例をあげ、より具体的で大変説得力のある内容であり感銘した。

〔実技について〕

体力測定については、実技が行われる前日の早朝、北陸高等学校体育館を会場に行われました。男女ともIHFが編集したCDによるシャトルランの測定であった。

合格値は、男子が9.5ラウンド、女子が8.5ラウンドである。シャトルランの合格値を超えるためには日頃からのトレーニングが継続されていなければかなり難しい。

ゲーム実技では、全日本実業団チャレンジ2011の大会を吹笛し、評価については、タワコリ氏＋後藤氏のペア、カラフ氏＋仲田氏のペアの2グループに分かれ、それぞれのペアについて評価された。担当ゲーム数は、各ペア2～3ゲームの担当であった。

ゲーム内容もハードプレーが随所にみられ、レフェリーとしても吹笛するに十分な好ゲームであった。

〔最後に〕

今回、レフェリーアカデミー活動の一環として、このAHF大陸レフェリーコースを開催することが出来たことは大変喜ばしいことであり、また、同時に受講したレフェリー全員が合格を頂き、晴れてコンチネンタルレフェリーになれた事は、日本協会にとっても大きな財産であります。現役国

際レフェリーの高齢化にともない若手レフェリーの育成が叫ばれていただけに全員合格は明るい兆しが見えてきたと言えます。

しかし、このアカデミーの最終目的は、国内トップおよび世界選手権、オリンピックの舞台で吹笛することであります。あくまでも今回のAHF大陸レフェリーコース資格取得は目標のための登竜門であり、最終的な到達点ではありません。さらにステップアップした目標に向かって新たな取り組みを構築していきたいと考えます。

このAHF大陸レフェリーコースを開催するにあたり、地元、福井県ハンドボール協会、全日本実業団連盟、北陸電力（株）、北陸高等学校および多くの関係者各位の皆様のご支援のお陰で、このような素晴らしいコースを開くことが出来ました。同時に快挙とも呼べる結果を頂くことも出来ました。

この誌面をお借りし皆様方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

今後もご指導ご鞭撻の程お願いいたします。

【参加者】

〔Course management〕

1) Dawud Tawakoli(AHF/PRC President) Course Leader
2) Khalaf Al-Enezi(AHF/PRC Member) Lecturer
3) 植村　彰 (JHA/PRC Chairman) Course Director
4) 仲田　稔 (AHF/PRC Member) Lecturer
5) 茂木　均 (JHA/International Relations) Administrator

〔Referee〕

1) Li Zhaomeng / Liu Jianpeng (CHN)
2) Kim Yong-Kwun / Kim Do-Hyung (KOR)
3) Lee Seok /Koo Bon-Ok (KOR)
4) Outyana Sarawat / Pakhuntod Wirsat (THA)
5) 本田　昭太／田渕　元雄（日本）
6) 佐々木　皇介／安田　達（日本）
7) 島尻　真理子／太田　智子（日本）
8) 河合　威廷／臼井　健（日本）

〔日本協会役員〕

市原　則之（副会長）
多田　博（副会長）
川上　憲太（専務理事）
志々場　修二（常務理事）
後藤　登（国際委員会）
冨田　拓（視聴覚委員会）
越田　義昭（審査指導委員会）
岸本　光夫（審査指導委員会）
家永　昌樹（国際レフェリー）
池渕　智一（国際レフェリー）
檜崎　潔（国際レフェリー）
原田　悟（日本協会事務局）
江守　康昌（福井県協会会長）
伊藤　昭一（県協会事務局）
半田　有完（県協会審判長）

Continental Referees Course, 07. -14.02.2011, Fukui, JPN
Timetable of the course

Date	Time	Event / Subject	Equipment	Venue
Monday 07.02.	All day	Arrival of Course participants to Fukui	-	-
	19:30	Hand over of personal documents to course Derector (Passport copies, Photos, registration forms stamped by relative national federation, medical certificate)		Hotel
	20:00	Dinner with Course leader, Course Director and lecturers		Hotel
Tuesday 08.02.	08:30	Opening Ceremony of the course by highest ranked person of JHA + Course leader		Meeting Room / Hotel
	08:45	Introduction of participants: who is who? + Overview of the course + Organizational related matters + Expectations		Meeting Room / Hotel
	09:00	Theory 1: New Rules 2010, Rule 8	DVD	Meeting Room / Hotel
	10:00	Café break		Meeting Room / Hotel
	10:20	Theory 1: New Rules 2010, Rule 8	DVD	Meeting Room / Hotel
	12:30	End of Morning section, then Lunch	-	
	15:00	DVD-Test	DVD	Meeting Room / Hotel
	15:45	Theory 2: Modern performance: Team Work, Positioning	Pow. Point	Meeting Room / Hotel
	16:30	Café break	-	Meeting Room / Hotel
	16:45	Theory 3: 7-m / 7-m and progressive / Handling / new teaching	DVD	Meeting Room / Hotel
	18:30	Rule Test 1	-	Meeting Room / Hotel
	19:00	End of evening section	-	
	19:30	Dinner		Restaurant
Wednesdny 09.02.	09:00	Test analysis: DVD-Test and Rule Test 1	DVD	Meeting Room / Hotel
	09:30	Theory 4: Situations at Goal area and wing Position	DVD	Meeting Room / Hotel
	10:45	Café break	-	Meeting Room / Hotel
	11:00	Theory 5: Passive play	Pow. Point /DVD	Meeting Room / Hotel
	12:30	End of Morning section, then Lunch	-	Restaurant
	15:00	Open book Test	-	Meeting Room / Hotel
	15:30	Theory 6: Attacker's fouls, basic and complexity	DVD	Meeting Room / Hotel
	16:30	Café break	-	Meeting Room / Hotel
	16:45	Theory 7: Advantages and provocations	DVD	Meeting Room / Hotel
	17:30	Open discussions	-	Meeting Room / Hotel
	18:00	End of evening section		-
	19:30	Dinner	-	Restaurant
Thursday 10.02.	07:00	Departure to the Hall		Hotel
	07:30	Shuttle Run Test	Microphone	Hall
	08:00	Return to Hotel, shower and breakfast	-	
	09:30	Theory 8: Special match situations: ·Situations inside the match ·Last minutes / last free throws ·Complex situations	DVD	Meeting Room / Hotel
	10:45	Café break	-	Meeting Room / Hotel
	11:00	Theory 8: Special match situations: ·... Continue	DVD	Meeting Room / Hotel
	11:30	Rule Test 2	-	Meeting Room / Hotel
	12:30	End of morning sections then lunch	-	Restaurant
	15:00	Theory 9: Summary rules changes 2010, various points	Pow.Point / DVD	Meeting Room / Hotel
	16:30	Café break		Meeting Room / Hotel
	16:45	Theory 10: ·What we can do better? ·Expectations from a Top Referee ·Psychological effects	Pow. Point /DVD	Meeting Room / Hotel
	18:30	End of evening section	-	
	19:30	Dinner	-	-
Friday 11.02.	09:00	Test analysis: Rule Test 2, Results of Open Book		Meeting Room / Hotel
	09:30	Preparation for the Tournament: Mental preparations, Group buildings, observations	Pow. Point	Meeting Room / Hotel
	11:00	Departure to "Gymnasium of Hokuriku Electric Power Company"	-	
	12:30	Match Day 1 in Court A and Court B	-	Halls
	17:30	Praxis: ·Problem situations of the matches ·Group Discussions	Balls	Hall
	18:00	Return to Hotel	-	-
	19:00	Dinner	-	Restaurant
Saturday 12.02	08:30	Match analysis of Day 1	DVD	Meeting Room / Hotel
	11:00	Departure to "Gymnasium of Hokuriku Electric Power Company"	-	-
	12:30	Match Day 2 in Court A and Court B	-	Halls
	17:30	Praxis: ·Problem situations of the matches ·Group Discussions	Balls	Hall
	18:00	Return to Hotel		
Sunday 13.02.	08:30	Departure to "Gymnasium of Hokuriku Electric Power Company"	-	
	10:00	Match Day 3 in Court A and Court B	-	Halls
	12:40	Final and match for 3rd / 4th Places	-	Halls
	14:00	Return to hotel and lunch	-	Restaurant
	16:30	Match analysis of Day 2 and 3, Conclusion of observations	-	Meeting Room / Hotel
	19:00	Dinner	-	-
Monday 14.02.	09:00	General instructions of AHF/PRC	-	Meeting Room / Hotel
	09:30	Closing ceremony of the course in presence of highest ranked person of JHA and course leader	-	Meeting Room / Hotel
	10:15	Photo memory	-	Hotel
	from 11:00	Departure of participants	-	

Dawud Tawakoli / AHF-PRC President

【参加レフェリーの声】

本田昭太（神奈川県）

今回 AHF レフェリーコースに参加することができ、とてもうれしく思います。

このコースに参加するにあたり、これまでにレフェリーアカデミーなどで学んできたことを活かせるように日頃からペアで話をし、試合を吹く前などには約束事の確認をするようにしてきました。これまでに行ってきたことが今回このような成果として現れ、ペアでの自信につなげることができました。

参加をして一番苦労したことと言えば、英語での講義、英語でのコミュニケーションです。初めての英語での講義には正直戸惑いがありましたが、話を聞いていくにつれてとても楽しくなってきました。もちろん他国の受講生とも英語での会話となります。伝えたいことを考えていると話は終わってしまうことがしばしばありましたが、たくさんの会話をすることができ、本当によい経験となりました。

今後は、今回のコースで学んだことやこれまでにレフェリーアカデミーなどで学んできたことを活かして活動をしていきたいと思います。今回 AHF レフェリーコースに参加させていただくにあたり、準備など多大なるご尽力をいただいた日本ハンドボール協会、福井県ハンドボール協会、諸先輩方々へは、この場をお借りしまして御礼申し上げます。

田渕元雄（神奈川県）

今回、コンチネンタルレフェリーコースを受講することが決まった時は、かなり嬉しい反面、とてつもない不安とプレッシャーが自分の中にありました。それは、私が今までお世話になった皆様への恩返しの意味も込め、何としても合格しなければならないと言う思いがあったからです。

レフェリーコースが始まると講義や受講生同士の会話は全て英語なので、かなり戸惑いがありました。しかし、受身になっていたら駄目だと思い、積極的に話をしていこうと、自ら前へ出て行きました。つたない英語力ですが、身振り手振りと気持ちを前面に押し出してコミュニケーションを取っていました。そして、このコースを通じて、英語力に関しては今後の最重要課題だと感じました。

今回、レフェリーコースに合格出来た事は、ご支援いただいた関係者の皆様、職場の皆様、応援してくれた家族、他多くの方の支えがあったからこその結果だと思っています。本当にありがとうございました。これからまた、新たなスタートラインに立ちます。更なる向上を目指して、誇りと自信を胸に、より一層精進していきたいと思います。今後もご指導の程宜しくお願い致します。

佐々木皇介（広島県）

AHF 大陸レフェリーコースに参加することが決まって、最初は実感がわかなかった。アカデミー発足以来、目標をつねに高いところにおき、国際をとって世界で吹くことをイメージしていたが、こんなに急な展開になるとは予想もしていなかったし、驚くばかりだった。でも実際にコースの日程がわかり、多くの方から「頑張ってこいよ」と言われるようになり実感がわいてきた。

新しく考えることはせずに、今までやってきたことの再確認とペアで話し合うことを中心に準備を重ねた。実際に参加してみて、一番大変だったのは語学だった。想像はしていたが、話せないと言うことが、とてつもなく重くのしかかった。

僕たちはみんな受かったが、一番大事なのは、間違いなくこれからだと思う。多くの人に支えられて今の自分たちがあることを忘れないで、これからも努力していきたい。

安田　達（広島県）

今回コースに参加してまず心がけたことは今までアカデミーで教えていただいたことを少しでも発揮することです。そして私自身このコースで更なる成長を求めていたので様々な講習でのレクチャーを素直に聞きものにしようと思いました。

そして私が一番大切だと思ったのはここに立てているのはどなたのおかげかという事です。レフェリーとして駆け出した時に一から教えてくださった檜崎さん高野さん、中国ブロックでレフェリーとはと教えてくださった藤井先生、高校の時の恩師でハンドボールの面白さを教えてくださった石原先生、アカデミーでご自身の経験を基にさらにどうするべきかなど教えてくださった家永さん、植村先生、池淵さん、このコースを受けるのを快く受け応援してくださった瀬野川病院の職員の皆様、ここに書ききれないほどの方の支えがあり私はこの場に立てていると思いました。

また今回経験した事を私の中でとどめずこれからできる後輩たちに伝えていくこともしていきたいと思います。そして、常に感謝の気持ちを忘れず日々努力していきたいと思います。

島尻真理子（東京都）

２月７日～ 14 日までの一週間、国籍や習慣が異なる８ペア 16 人が過ごした時間は、今後のレフェリー人生に欠くことができない…それほど充実した一週間だった。これが、AHF レフェリーコースを終えた今の率直な気持ちです。

それまでは、２月７日がこないで欲しい…不安な日々を、幾度となく過ごしました。そんな時、支えとなったのが、日本協会や東京都協会、沖縄県協会、大学球界、アカデミーの仲間といった、沢山の関係者や仲間からいただく励ましの言葉や、温かい心でした。

そしてそれは、本番を迎え、より大きな力となりました。英語での講習、筆記テスト、シャトルラン、実技…多くの不安要素が絡み合う中、私が頑張れた一番の要因は、アカデミーや今回のコースを通し出会えた仲間、なにより、御自身のことよりも私たちの為に御尽力くださった日本協会や福井県協会関係者の温かくも熱い支えでした。

今回、私たちがいただいたワッペンには、全ての方々の支えや想いがこもっています。この重みを胸に、国内外を問わず一つでも多くのゲームを経験し、得られた財産を還元することが、

恩返しの一つだと思います。

最後になりますが、今回のみならず、今まで支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。今後も御指導の程、宜しくお願い致します。

太田智子（岡山県）

はじめに、日本ハンドボール協会をはじめ、サポートしていただいた中国協会・岡山県協会の方々、開催県でご尽力いただきました福井県協会の皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。

今回、身に余る想いで、AHF大陸レフェリーコースに参加させていただきました。私にとってレフェリーをすることは、選手として経験してきたハンドボールを裏側から見る気持ちです。新たなハンドボールが経験できて、とても新鮮で楽しい気持ちです。AHF大陸レフェリーコースに参加するにあたって、緩んだ体を絞り、体力トレーニング、英会話レッスン、ルールの確認などを仕事の合間や終わってから行ってきましたが、成果が出ない自分に苛立つ日々を送っていました。しかし、職場の方々のサポートがあってこそだということを忘れてはいけないと、思い踏ん張りました。コースが始まると、他国から参加したレフェリーや日本から参加したレフェリーの心の温かさにふれ、意見を交わし、指摘し合い、励まし合いながら受講することが出来ました。大変だったことや苦労したことはありません。これから苦労しなければいけないと思うからです。日本のハンドボール界が盛り上がるために、そして、サポートしてくださっている多くの方々に恩返しする意味でも努力していきたいと思っています。

河合威廷（愛知県）

今回レフェリーコースに参加でき、そして合格できたことはとてもうれしく思います。普段から研修に励み、諦めなかった事が結果に繋がったのだと思います。そして応援してくださっている方々に感謝し、今後も期待に応えられるよう努力していきたいです。

また、今回見つかった課題についても一歩一歩前進していきたいです。その中で一番苦労したことが「言葉」でした。講義はもちろん英語で話しますし、会話するのも英語でした。緊張していた事と英語が苦手という事もありましたが、毎日いろんなレフェリーと会話しているうちに、お互いが相手のことを知ろうとしている事に必死なんだなぁと思い、身振り手振りを織り交ぜながらでしたが、コミュニケーションがとれました。また、ペアの臼井が英語の教師であった事もあり、助けてもらった部分が多く、今後は私自身もしっかりと英語を話す事ができるようにならなければいけないと思いました。



今後の目標は、IHFレフェリーを視野に入れながら、色んな場所で多くの試合を吹き、レフェリー技術の向上と、ハンドボールの発展に努めていきたいです。そして、常に研修に励み、語学力、人間性を磨いていこうと思います。

臼井　健（愛知県）

今回のレフェリーコースに参加して、合格できましたが、実感がまだなく、「本当に自分が」という驚きが隠しきれません。

今回合格できたのも、植村審判長を始めとする、多くの日本協会の皆様のご指導のおかげだと思っています。また、地元東海ブロックの楓審判長、愛知県協会の松原審判長を始めとする皆様には日頃からたくさんのご指導をいただき、同じように感謝しております。

今回レフェリーコースへの参加は4月から始まったレフェリーアカデミーの存在無しには語ることはできません。実際にゲームの吹笛はもちろん、座学での勉強も繰り返してきました。また「国際レフェリーになる」という思いが強くなっていったのもこのアカデミーを通してでした。

まだまだ未熟な私ではありますが、今回の合格という良い結果は、先輩レフェリーの方々の姿を一所懸命追いかけてきたひとつの結果だと思います。そういった方々への感謝の気持ちを忘れずにこれからも研修に励んでいきたいと思います。

最後に、今回の参加を快く送り出してくれた、学校長始め、職場の方々にもこの場を借りて御礼申し上げさせていただきます。

NTS2010 センタートレーニング報告

NTS 技術指導委員長　田中　守

2011 年の年明け早々の 1 月 4 日～ 7 日に高校生、1 月 8 日～ 10 日に中学生を対象とした、恒例の NTS センタートレーニングが味の素ナショナルトレーニングセンターで開催されました。夏に開催された NTS ブロックトレーニングを経て、全国 9 ブロックから推薦された約 50 名の選手の中から、中学生は U-16、高校生は U-18 並びに U-20 のナショナルカテゴリースタッフにより約 30 名に絞られた選手(別表)が参加しました。

NTS センタートレーニングの主旨は、年代別強化指定選手(各年代 5 名程度）の選考と指導者研修です。なお、強化指定選手に選ばれなかった選手はすべて強化候補選手となります。

2000 年からスタートした NTS は 10 年を経過し、その検証のもと一部改編して 2010 年度 NTS をスタートしました。中長期的に、ユース・ジュニア層が世界大会で活躍する選手づくりを具体的目標として掲げ、そのための新たな取り組みとして、小学生から高校生までの一貫指導内容の再検討と、一貫指導内容を各県でも取り組んでいただくための NTS 組織の再編がそのポイントです。

1．指導内容の一貫性の再検討

NTS スタート時から目的としてきた「個の育成」を主眼に、下記観点からの指導内容の一貫性を再検討するワーキンググループとして「テクニカルグループ委員会」を編成し、攻撃・防御・GK の部門別担当者中心に 3 カ年計画で整理・構築する計画で進めています。

(1）小学校期からの Good Habit（良い習慣）づくり、すなわち基礎的運動能力や基礎技術の習得とともに視野の広さや認知・判断能力、身のこなしなどを身につけさせること。

(2)中学校期からの日本人の特徴を生かした Total Mobility(総合的機動力)、すなわちスピードとコーディネーション、コンビネーション力を身につけさせること。

(3）高校期からの力強さづくりによるパワーアップと、世界を見据えた技術、戦術を身につけさせること。

2．NTS 組織の再編

NTS の求める一貫指導体制の構築に向け、NTS ブロックトレーニングをブロック選出のスタッフで主導的に実施していただくとともに一貫指導を各県でも定着していただくために、NTS 運営委員会と NTS 技術指導委員会に分割する組織にしました。新設の NTS 技術指導委員会は各県での指導者育成を目的としており、県選出の技術指導委員は各ブロックトレーニングに必ず参加し、各県での NTS 伝達講習会を実施することとしています。

以上のような考え方でブロックトレーニングを実施し、センタートレーニングでは下記内容を実施しました。

1．最初に、恒例の体力測定を実施しました。

2．その後、今年度策定した指導内容を、部門担当者が中心となって改めて指導しました。なお、技術トレーニング前に、今年度新たに取り上げたウオーミングアップの中で、体幹強化、肩関節と股関節の可動性の拡大による大きな動きづくり、リズムとリラクゼーションをねらいとしたものを行い、多くの技術習得の前提となることを強調しました。

3．後半は、中学生に対しては U-16、高校生に対しては U-18 のコーチングスタッフの提示するチーム戦術構想を初日夜の座学により学習するとともに、それを実践（表現）するトレーニングを実施しました。

4．2 日目の夜には、今年度新たに取り入れたメディカルチェックにより障害の既往歴や現在の症状、さらには体の柔軟性や筋の硬度などさまざまなコンディショニングチェックも行いました。

5．2 日目の夜に選手のメディカルチェックと併行して指導者の研修を行い、「世界の動向」の映像研修とフリーディスカッションを行いました。

6．昼休みを活用して、男子は世界選手権の映像を、女子は韓国を破ったアジア大会の映像を解説付きで観賞させ、その後、国際レフェリーからの講義と質疑を行いました。

年始早々から、非常に内容の濃い充実した NTS センタートレーニングが実施できたのも、参加した選手、引率指導者、指導・測定・運営スタッフ、送り出して下さった学校や企業、保護者など多くの方々のご理解とご協力によるものと、書面を借りて深く感謝申し上げます。

現在の日本代表選手のほとんど（9 割強）が NTS のブロックあるいはセンタートレーニングを経験してきていることからも、今回参加した選手の多くが日本代表へと育っていくことを期待しています。ありがとうございました。

参加選手

中学生男子	
安倍竜之介	松園中
佐藤立盛	五橋中
菅野　徹	川俣中
玉川裕康	田島中
今野利彦	けやき台中
相澤祐太	けやき台中
関根圭祐	伊奈東中
康本侃司	松葉中
友兼尚也	安居中
堀　広輝	ヴァルト岐阜
吉田英太郎	白子中
山田雄太	朝明中
吉村翔也	滝ノ水中
牧野友則	前芝中
石田　享	大体大附中
坂本　壮	洛星中
古川大輔	久世中
佐々木亮大	丸山中
斎藤大生	岩出第二中
徳田新之助	平田中
高橋大和	城北中
小田真輝	綾南中
宮本剛典	松橋中
楠元勇輝	穎田西中
津山弘巳	三松中
屋比久浩之	仲西中
庄子直志	大宮中
永川元貫	竜山中
松本光也	南林間中
小林考紀	平針中

中学生女子	
渋谷優衣	函館桔梗中
村松真優	矢巾中
音部泰子	上田中
佐原奈生子	本宮第一中
河原畑祐子	東久留米西中
橋本　澪	東久留米西中
岩渕いくみ	鬼怒中
山本佳子	光陽中
木村有沙	光陽中
北原佑美	西條中
岩永真由子	光陽中
藤田咲妃	蘇原中
藤原真由子	平針中
竹内千尋	住吉第一中
片山愛梨	大住中
江森加奈子	夙川学院中
伊藤有希	魚住東中
徳永千紘	今治東中
谷　華花	香川第一中
高田沙妃	西南学院中
橋本　南	松橋中
竹原千賀	松橋中
江藤美佳	東陽中
中地杏莉	神森中
七崎琴美	本通中
木村也実	鬼怒中
千葉美和	平針中
中川瑞季	松橋中

高校生男子	
沢田慎悟	野辺地高
佐々木亮輔	不来方高
森田啓亮	不来方高
村田知紀	不来方高
大宮潤次	不来方高
齊藤　凌	不来方高
工藤大和	不来方高
中島堅人	清凌情報高
藤田涼平	北村山高
瀧澤尚也	富岡高
楳木武士	市川高
加藤芳規	浦和学院高
杉本　翔	北陸高
川島悠太郎	福井商業高
平子健人	北陸高
西出克己	金沢市工高
橋本明雄	関大北陽高
大迫秀政	洛北高
堤　由貫	洛北高
久保二千笑	岩国工業高
内海祐輔	香川中央高
十河勇志	高松工芸高
池田憂輝	瓊浦高
佐藤功一	大分雄城台高
谷之木陵	小林秀峰高
東江雄斗	興南高

高校生女子	
鈴木麻莉子	聖和学園高
高橋里帆	大曲農業高
石川　遥	大曲農業高
加納明帆	大曲農業高
古関春南	湯沢高
橋本　彩	佼成女子高
中村光代	文大学杉並高
高宮　咲	文大学杉並高
小林稚菜	小金井北高
田中志都佳	小松市高
関澤あすか	小松市高
林るうな	市立向陽高
眞継麻礼	洛北高校
吉田千紘	洛北高校
竹下佳慧	四天王寺高
水田亜莉沙	四天王寺高
堀川真奈	四天王寺高
永田美香	四天王寺高
藤田美樹	四天王寺高
和田茉奈実	高水高
茶圓　遥	高松商業高
山本秀華	新居浜東高
福井亜由美	神埼清明高
伊地知里穂	鹿児島南高
山田莉娑	那覇西高

平成 22 年 3 月 19 日、駒澤大学において、第 8 回ハンドボールコーチング研究会が開催されました。本研究会は、全国指導者が自身の経験や・知見を持ち寄り、実際の現場で有用な情報を共有する機会として位置付けられています。

研究会の発表内容については、本誌で連載報告していただく運びとなりました。

今月は中島瑛介さん（岐阜大学院）の発表内容「ハンドボールの投動作に関する研究（2）」を報告させていただきます。なお、他の発表については次号以降で報告を連載いたします。

(財)日本ハンドボール協会指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人松韻学園福島高等学校）

ハンドボールの投動作に関する研究（2）

―小学生のボール把持力とフォームの関係―

中島　瑛介（岐阜大学院）、杉森　弘幸（岐阜大学）、下川　真良（朝日大学）

キーワード：ボール把持力、ボール保持、運動エネルギー

Ⅰ. 研究目的

本研究は、小学生のハンドボールにおけるステップシュートについて初速度を高める動作の加齢に伴う変容、ボール把持力とフォームの関係を明らかにし、指導に役立つ一資料を得ることを目的とした。

Ⅱ. 研究方法

（1）測定対象者

岐阜県内のハンドボールクラブに所属している児童 157 名

（2）測定項目

①ボール把持力：ばねはかりを取り付けたボールを握らせ、実施者がばねはかりを引き、手から離れた時の重さを測りこれをボール把持力とした（図 1）。



図 1　ボール把持力の測定

②初速度及びフォームの測定：ハイスピードカメラで側方 20 メートルから、シュート動作を撮影し、動作解析ソフトで初速度と以下のフォームを評価するための変数を算出した。

①スタンス②ボール移動距離③ボールの高さ〔バックスイング以下 BS 時〕④肘の高さ〔BS 時〕⑤ボールの高さ〔リリース時〕⑥肩速度⑦肘最高速度⑧手首最高速度⑨スナップ比（⑪／⑧）⑩肩とボールの速度比（⑪／⑥）⑪初速度

Ⅲ. 結果及び考察

（1）初速度を高める動作の加齢に伴う変容

初速度と各測定項目の相関係数から、初速度を高める動作の加齢に伴う変容を検討した。2 年男子で、初速度と有意な相関関係がみられた項目は、スタンス（r = 0.5690）、肘の高さ〔BS 時〕（r = 0.6285）、肩速度（r = 0.5576）、スナップ比（r = 0.5643）であった。3 年男子で、初速度と有意な相関関係がみられた項目は、ボールの高さ〔BS 時〕（r = − 0.5122）、ボールの高さ〔リリース時〕（r = 0.5133）、肩速度（r = 0.5898）、肘最高速度（r = 0.5306）、手首最高速度（r = 0.8173）、スナップ比（r = 0.6184）、肩とボールの速度比（r = 0.4839）であった。5 年男子で、初速度と有意な相関関係がみられた項目は、肘最高速度（r = 0.5341）、手首最高速度（r = 0.6339）、スナップ比（r = 0.6806）、肩とボールの速度比（r = 0.4505）であった。6 年男子で、初速度と有意な相関関係がみられた項目は、肩速度（r = 0.4284）、肘最高速度（r = 0.4733）、手首最高速度（r = 0.5318）、スナップ比（r = 0.9121）、肩とボールの速度比（r = 0.5342）であった。

これらの各学年における特徴から、初速度を高める動作の加

齢による変容を検討した。2年男子でのスタンスを大きく取る動作は、身体の移動距離を大きくし、BS時の肘を高くすることは、BSを大きくし、ボールの移動距離を伸ばすための準備であると考えられる。また、3年男子での、BS完了時にボールの位置が低いことは、後方低い位置から曲線を描くようなフォワードスイングを導き、ボールの移動距離を伸ばしていると考えられる。以上の特徴をまとめると、低学年男子では、運動範囲を広げ大きな運動エネルギーを発揮することで初速度を高めていると考えられる。

一方、5、6年男子では、スナップをきかせることや腕全体で速度を増加させていることから、高学年男子は、運動範囲を広げ大きな運動エネルギーを得る動きに加え、下肢及び体幹で得た運動エネルギーを効率よくボールに伝えることで、初速度を高めていると考えられる。

（2）ボール把持力とフォームの関係

5、6年男子におけるボール保持のしかたは、下から握る、横から握る、上から握る、の3つに分類できた。図2は、ボール保持のしかた別に、ボール把持力の平均値を示した図である。6年生男子で、ボール把持力が最も高いのは「上から」で、次が「横から」、最も低いのは「下から」であった。5年生男子においても、「上から」が最も高かった。よって、ボール把持力が高い児童は、ボールを上から握っているという傾向が示唆された。

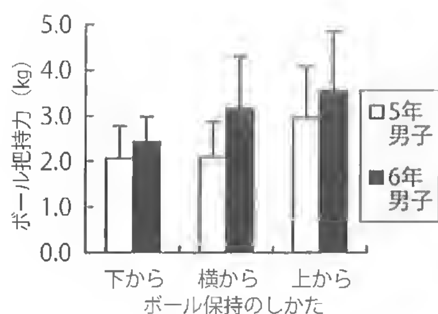


図2　ボール保持の違いによるボール把持力

次に、ボール保持のしかたが初速度に影響しているか検討した。図3は、5年生男子において、ボール保持のしかた別に初速度の平均値を示した図である。ボールを上から握っている児童の方が、ボールを下からに握っている児童よりも、有意に初速度が高かった。また、6年男子においても有意ではないものの同様の傾向であった。



この初速度の違いの要因を明らかにするため

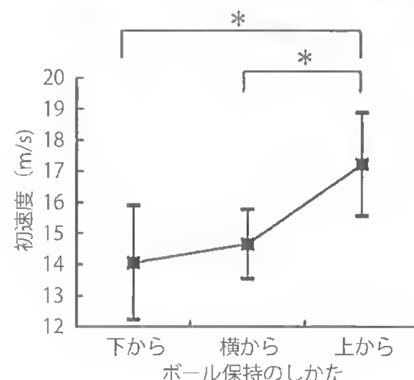


図3　ボール保持の違いによる初速度

に、下からボールを握っている児童と、上からボールを握っている児童の腕の軌跡を比較した。その結果、上から握っている児童の方が、BS完了時に肘の位置が高いこと、上から握っている児童はリリースの直前に手首を返しているが、下から握っている児童は手首を返しが早すぎるという違いがあった。

Ⅳ．まとめ

小学生のステップシュートを分析した結果、以下のことが示唆された。

- ステップシュート動作において、低学年男子では運動範囲を広げ、大きな運動エネルギーを発揮することで初速度を高め、高学年男子では、運動範囲を広げて得た運動エネルギーを効率よくボールに伝えて初速度を高めていること。
- ボール把持力が高い児童は、ボールを上から握っていること。
- 5年生男子において、ボールを上から握っている児童の方が、ボールを下から握っている児童よりも、有意に初速度が高いこと。

スコアールーム ①

第19回JOCジュニアオリンピックカップ2010ハンドボール大会

開催期日：2010年12月25日（土）～28日（火）
会　　場：愛知県名古屋市・愛知県体育館ほか

【男　子】

▼予選リーグA組
神奈川　35（17－11、18－12）23　秋　田
名古屋　35（19－10、16－12）22　神奈川
名古屋　42（19－11、23－12）23　秋　田

▼予選リーグB組
長　崎　30（14－10、16－11）21　香　川
長　崎　36（14－11、22－７）18　北海道
香　川　39（24－９、15－16）25　北海道

▼予選リーグC組
熊　本　34（17－12、17－18）30　富　山
山　口　48（21－17、27－16）33　熊　本
山　口　38（17－７、21－13）20　富　山

▼予選リーグD組
埼　玉　30（11－13、19－16）29　大　阪
埼　玉　31（16－13、15－10）23　三　重
三　重　29（17－11、12－11）22　大　阪

▼予選リーグE組
和歌山　23（10－７、13－15）22　愛　媛
沖　縄　31（15－10、16－８）18　和歌山
沖　縄　29（15－６、14－６）12　愛　媛

▼予選リーグF組
愛　知　32（16－14、16－９）23　群　馬
岩　手　30（13－９、17－14）23　群　馬
岩　手　32（12－９、20－６）15　愛　知

▼予選リーグG組
兵　庫　40（14－14、26－13）27　岡　山
岐　阜　29（15－13、14－10）23　兵　庫
岡　山　29（12－13、17－15）28　岐　阜

▼予選リーグH組
茨　城　38（21－13、17－12）25　福　井
鹿児島　30（12－13、18－11）24　福　井
茨　城　30（17－16、13－13）29　鹿児島

▼準々決勝
長　崎　31（15－９、16－13）22　名古屋
埼　玉　29（16－12、13　16）28　山　口
岩　手　33（11－16、13－８）29　沖　縄
（５－１　延　長　４－４）
兵　庫　35（19－10、16－19）29　茨　城

▼準決勝
長　崎　37（15－17、22－12）29　埼　玉
兵　庫　29（12－15、17－７）22　岩　手

▼決　勝
長　崎　37（19－13、18－15）28　兵　庫

【女　子】

▼予選リーグa組
京　都　14（４－８、10－６）14　石　川
名古屋　28（11－７、17－５）12　石　川
名古屋　19（７－６、12－８）14　京　都

▼予選リーグb組
熊　本　24（12－10、12－13）23　神奈川
神奈川　21（11－８、10－10）18　岡　山
熊　本　31（19－10、12－14）24　岡　山

▼予選リーグc組
茨　城　25（12－10、13－12）22　岩　手
茨　城　23（12－５、11－12）17　大　阪
大　阪　21（11－10、10－７）17　岩　手

▼予選リーグd組
香　川　29（14－８、15－６）14　富　山
富　山　20（14－４、６－12）16　沖　縄
香　川　24（11－６、13－10）16　沖　縄

▼予選リーグe組
埼　玉　19（11－12、８－７）19　岐　阜
岐　阜　32（16－６、16－２）８　秋　田
埼　玉　45（27－２、18－７）９　秋　田

▼予選リーグf組
宮　崎　24（14－９、10－13）22　北海道
兵　庫　26（12－９、14－11）20　宮　崎
兵　庫　45（18－12、27－10）22　北海道

▼予選リーグg組
大　分　30（14－４、16－６）10　愛　知
福　島　18（８－８、10－９）17　愛　知
大　分　24（９－６、15－10）16　福　島

▼予選リーグh組
福　井　31（17－４、14－７）11　山　口
東　京　36（14－８、22－11）19　山　口
福　井　21（８－９、13－11）20　東　京

▼準々決勝
名古屋　25（14－８、11－12）20　熊　本
香　川　23（９－14、14－５）19　茨　城
埼　玉　26（10－12、16－５）17　兵　庫
福　井　24（５－９、13－９）19　大　分
（２－１　延　長　４－０）

▼準決勝
香　川　21（８－13、13－７）20　名古屋
福　井　26（14－12、12－13）25　埼　玉

▼決　勝
香　川　24（12－５、12－９）14　福　井

スコアールーム ②

全日本実業団ハンドボールチャレンジ2011

開催期日：2011年2月11日（金）～13日（日）
会　　場：福井県永平寺町・北陸電力福井体育館フレア

▼１回戦
トヨタ自動車　27（14－５、13－８）13　マツダ
ＥＨＣ　26（14－９、12－７）16　ブラザー工業
大阪ガス　28（13－５、15－４）９　日本耐酸壜工業
トヨタ自動車　23（11－７、12－13）20　八光自動車工業
新日鐵名古屋　23（11－６、12－８）14　豊田自動織機
トクヤマ　20（10－９、６－７）19　ＥＨＣ
（４　7mTC　３）
金沢市役所　29（15－６、14－13）19　大阪ガス
トヨタ自動車　22（９－３、13－13）16　新日鐵名古屋
トクヤマ　23（12－13、11－８）21　金沢市役所

▼順位決定戦
ＥＨＣ　34（18－６、16－６）12　豊田自動織機
ブラザー工業　23（13－10、10－10）20　マツダ
大阪ガス　24（11－10、13－８）18　日本耐酸壜工業
ＥＨＣ　23（10－５、13－11）16　ブラザー工業
八光自動車工業　23（７－９、16－７）16　大阪ガス

▼9－11位決定1回戦
豊田自動織機　34（19－８、15－８）16　日本耐酸壜工業

▼9位決定戦
豊田自動織機　26（11－10、15－10）20　マツダ

▼7位決定戦
大阪ガス　22（12－６、10－10）16　ブラザー工業

▼5位決定戦
八光自動車工業　23（10－10、13－12）22　ＥＨＣ

▼3位決定戦
金沢市役所　23（12－９、11－10）19　新日鐵名古屋

▼決勝戦
トヨタ自動車　24（11－11、13－９）20　トクヤマ

このたびの東日本大震災で被災された皆様へ心よりお見舞い申し上げます。

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」1・2月入会・継続会員

【岩　手】多田和生【山　形】五島訓二【茨　城】岡本　大【埼　玉】中上達生、辻　幸志、辻　七海【千　葉】窪田　優
【東　京】伊東　卓、田村正一、田村裕子、澤井志子、堀江成典、大場信吾【神奈川】吉田祐子、田村修治
【石　川】寺垣俊彦、【愛　知】秋田真理子、宮地光男【京　都】廣瀬佳代【大　阪】平田光徳、長嶺利昭、繁田順子
【奈　良】木村和正、木村加代、【岡　山】福岡誉之【広　島】西山絵理【福　岡】浅野　衛

【4月の行事予定】

【会議】……………………………………………………………
4月16日(土)　常務理事会（東　京）
【大会】……………………………………………………………
4月8日(金)～13日(水)
第8回東アジアクラブ選手権(中国･山東省栄成市)
4月24日(日)
第3回日韓定期戦(韓国)

＊＊

JAPAN CUP 2011 TOKYO GAMES

大会期間：平成23年6月17日(金)～19日(日) 3日間

出場チーム：男女6チーム

男　子：日本代表、ロシア(予定)、スペイン(予定)

女　子：日本代表、ロシア(予定)、モンテネグロ(予定)

開催場所：東京体育館

＊＊

HAND BALL CONTENTS Mar. Apr.

(登録チームの購読料は登録料に含む)



(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第五一七号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成二十三年三月二十六日印刷 平成二十三年四月一日発行

東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表〇三－三四八一－二三六一
振替 〇〇一二〇－七－一〇二九三

編集兼発行人 川上憲太

定価 年間三三〇〇円